調査報告書の公表に関するお知らせ

2022年1月5日に、出演協力者である小島慶子氏、津田大介氏、南彰氏、望月衣塑子氏、安田菜津紀氏の5名より公党から資金提供を受けていた件に関して、抗議文を受け取りました。本件における事実関係の調査を、専門的かつ客観的な見地から外部専門家に依頼し、6月8日に外部専門家より調査報告書（以下、「本報告書」とする）を受領いたしました。この間、本報告書の内容をもとに今後の対応について整理して参りました。この度、調査報告書の公表と今後の対応についてお知らせいたします。

CLPサポーターの皆さまおよびクラウドファンディング支援者の皆さまはじめ、出演者、関係協力者、団体、企業の皆さま並びに視聴者の皆さま方の信頼を損なう事態を招き、ご迷惑やご心配をおかけしましたことを改めて衷心よりお詫び申し上げます。調査報告書で指摘された発生原因と責任における提言を真摯に受け止め、今後支援者の皆さまと向き合い、これからの取組みを検討して参ります。

1. 外部専門家による調査結果

外部専門家の調査結果につきましては、下記添付の調査報告書をご覧ください。

2. 今後の対応について

本報告書でのご指摘の通り、私たちが起こした問題は大変不誠実であり、その前提に、致命的な認識の欠如があったと重く受け止めております。

当時、任意団体として意思決定する立場にあった佐治、工藤、A氏が、テレビ報道の現場を経験している身でありながら、公党からの資金提供に際し議論を行わなかった事は、倫理上の問題がありました。運営や番組制作において、そのような非常に重要な課題を前にして、その議論をしないという判断の甘さ、緊張感の欠如がありました。スタッフ間の十分なコミュニケーションや外部への相談体制を敷くことができてこなかったことも、要因の一つと考えております。

その結果、公党からの資金提供の事実を、視聴者の皆さまや出演者、協力者の皆さまに伝える判断に至らなかった事、また、クラウドファンディングやサポーターとしてのご寄付を呼びかける際にその事実を開示しなかった事は、多くの方の信頼に背く行為だったと思います。

本報告書では、具体的な形でCLPの責任について言及されておりました。

（1）「物的な観点からの責任」について

クラウドファンディング支援者の皆さまの中で、ご返金を希望される方には全額返金する形で対応して参ります。（クラウドファンディングの支援者の皆さまには別途案内のメールをお送りさせていただきます）

（2）「人的観点からの責任」について

リスクの観点も含め組織再編の必要性を言及いただきましたが、実情としてChoose Life Projectを運営する株式会社CLPの社員は佐治、工藤の2名のみのため、体制として今すぐ組織の再編は難しい状況にあります。そのため、「抗議へのご説明」（1月6日）の中で佐治のChoose Life Projectの共同代表辞任を表明いたしましたが、今後、支援者等との意見交換会で説明を終えるまでは、現体制で対応させていただきます。

（3）「支援者への説明責任」について

私たちの活動は、様々な支援者・関係者の皆さまのご支援、お力添えによってこれまで活動を続けることができました。今後の方針を検討する上でも、まずはサポーターおよびクラウドファンディングにご協力いただいた方々に対して直接本件の経緯についてご説明させていただき、ご質問やご意見を拝聴し、活動の継続もしくは解散について最終的な判断をして参りたいと思います。

【今後の予定】

●CLPサポーターおよびクラウドファンディング支援者等とのオンライン意見交換会

※2022年7月27日時点のCLPサポーターおよびクラウドファンディング支援者の皆さまには、別途、意見交換会のお知らせをメールにてご案内させていただきます。

●活動の継続・解散における方針の発表

●アーカイブの再公開

現在、資金提供を受けていた期間（2020年3月～9月）のアーカイブを非公開とさせていただいておりますが、出演者から「非公開」の希望がない配信については、順次、再公開して参ります。

今年1月に活動を停止してからのこの半年間、これまでお力添えいただいた数多くの関係者や出演者の皆さまの様々なご意見を伺って参りました。

多くの方々のご尽力やお知恵、想いに支えられ、今のCLPがあると思います。

調査報告書の結果を重く受け止め、サポーターの皆さまおよびクラウドファンディング支援者の皆さまをはじめとする多くの皆さまの声に真摯に向き合い、説明責任を果たし、決断をして参りたいと思っております。

以上

2022年7月28日

Choose Life Project

共同代表　佐治洋・工藤剛史

Choose Life Project が立憲民主党から資金提供を受けた件に関する調査報告書

２０２２年６月８日

浜田敬子

馬奈木厳太郎

［　目　次　］

1　はじめに　３頁
2　資金提供をめぐる経緯について　５頁
3　問題の所在と所見　１０頁
4　CLP の責任について　１４頁
5　ヒアリング要旨　１５頁
　・福山哲郎氏
　・中原大弐氏
　・A 氏
　・工藤剛史氏
　・佐治洋氏
6　資料　３１頁
　・配信一覧
　・出演者一覧
　・出演者アンケート

第１　はじめに

本報告書は、２０２２年１月５日付の小島慶子、津田大介、南彰、望月衣塑子、安田菜津紀の５氏の連名による「Choose Life Project のありかたに対する抗議」と題する書面が SNS 上で公表され、同月９日、Choose Life Project（以下、「CLP」という）が、外部の専門家に報告書作成を依頼するとしたことを受け、作成されたものである。

５氏は、①CLP が「公共メディア」を標榜しつつ、実際には公党（立憲民主党）からの資金で番組制作を行っていた期間があること、②その期間、公党との関係を秘匿し、一般視聴者から資金を募っていたこと、を重大な問題だとし、CLP に対して、２０２０年からの約半年間の資金の流れの詳細を明らかにするよう求めた。

本報告書は、かかる経緯をふまえ、CLP が立憲民主党から資金提供を受けることとなった経過、資金提供を受けた期間、資金の使途等について、関係者からの聞き取りや資料の提供などをもとに報告するものである。

本報告書においては、役職者については、実名を記載し、役職者以外の者については、肩書（例、顧問弁護士など）あるいはアルファベット（例、A 氏、B 氏）で表記することとする。

本報告書の作成にあたっては、福山哲郎氏（前・立憲民主党幹事長）、中原大弐氏（株式会社 GENAU 代表取締役）、佐治洋氏（CLP 共同代表）、工藤剛史氏（CLP 共同代表）、A 氏（CLP スタッフ）の５氏に対して、それぞれ聞き取りを行った。

また、CLP の決算報告書については、公認会計士・野口剛氏が確認し、その結果、①２０２１年６月期の売上として計上すべき約３０万円の売上の計上漏れ、②法人設立前の収入である約７９万円が法人の収入として過大な売上計上、③２０２１年６月期に計上すべき約６６万円の費用の計上漏れ、の３点について課題が指摘された。あわせて、佐治洋氏の令和２年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告書、CLP の第一期（自令和２年７月１０日至令和３年６月３０日）の法人税確定申告書及び地方法人税の確定申告書の税務申告書の適正性については、税理士・佐伯正隆氏が確認し、佐治洋氏については、「確定申告書は適正である」とされ、CLP については、「第一期法人税申告書等は、決算報告書の当期純利益金額から法人税法に規定する益金・損金の額が法人税法の規定にそって正しく加算・減算されており税務上の適正な課税所得が算出されている」、「課税所得から計算される法人税額、地方法人税額並びに法人事業税額・特別地方法人税額及び都民税額は適正に計算されている」とされた。公認会計士・野口剛氏及び税理士・佐伯正隆氏の指摘を受け、CLP として、必要な対応を採る方

針だと聞いている。

本報告書は、ジャーナリスト・浜田敬子、弁護士・馬奈木厳太郎が作成した（末尾に添付した資料は、CLP によって作成され、提出されたものである）。なお、浜田敬子と馬奈木厳太郎は、過去に CLP の番組に出演したことがある。

第２　資金提供をめぐる経緯について

１　CLP の立ち上げについて

CLP は、２０１６年、佐治洋（以下、「佐治氏」という）、工藤剛史（以下、「工藤氏」という）、A 氏の３氏によって立ち上げられた。３氏は、当時、それぞれ番組制作会社に在籍しており、お互いに知り合いであった。

立ち上げた際、CLP として番組を投稿することを計画しており、地上波のニュースや報道番組では取りあげられない、あるいは取りあげられたとしても大きくは扱われないテーマで、しかしながら重要だと思われるものについて、取りあげていくことを目指していたが、当面は著名人のコメント動画を選挙の際に投稿し、投票率の向上に資することとした。「Choose Life」というプロジェクト名も、「主体的に選んでいく」という問題意識から、この名称を用いることになった。

この時点では、３氏は、CLP をいわゆる「メディア」としては認識しておらず、休日を利用しての一種の「活動」として認識していた。また、番組制作に要する費用は自弁しており、取材対象者に取材費などの名目で謝礼を渡すこともなかった。

CLP の第１回目の投稿は、２０１６年７月４日であった。同年７月１０日に予定されていた参議院選挙に関して、著名人のコメント動画を投稿したものだが、その日から連続的に８名に対するインタビュー内容をそれぞれ投稿した。

２　初期の活動について

２０１６年７月４日の第１回目の投稿以降、CLP は、同年７月の都知事選、２０１７年１０月の衆議院選挙、２０１８年９月の沖縄県知事選挙、２０１９年７月の参議院選挙に際して、著名人のコメント動画を投稿した。２０１９年１２月には、「このめちゃくちゃな国で理性を保つために」と題して、初めてのライブ配信を行った。このライブ配信については、株式会社 GENAU（以下、「GENAU」という）のスタッフが、ボランティアで技術的なサポートなどを担った。以後、全ての配信について、技術的なサポートは GENAU が担っているが、これは、佐治氏ら３人が、GENAU のスタッフらと知り合いであったことによるものである。

２０２０年に入ってからは、「『表現の自由』を考えるプロジェクト」、「国会ウォッチング」などシリーズものの配信も開始された。

この時期の投稿や配信についても、番組制作に要する費用は３氏で自弁しており、取材対象者に対して、取材費などの名目で謝礼を渡すことはなかった。例外的に、２０１９年１２月の第１回目のライブ配信については、出演者に謝礼を

支払ったが、その費用は３氏が自費を充てたものだった。

３　立憲民主党からの資金提供の経緯について

（１）　２０２０年３月、佐治氏が務めていた番組制作会社を退職した。これにより、佐治氏は、フリーランスの立場で映像制作を行うことになり、GENAU から NPO 法人の活動を記録し紹介する映像制作の仕事を請け負ったりして、報酬を受け取っていた。

また、CLP の配信回数も増え、３氏による自弁や、配信にかかわるスタッフのボランティアによる協力も限界があることから、資金調達に向けて、いわゆるスポンサー探しを行い、数社及び数人の個人に対して資金提供を打診した。この資金調達には、番組制作会社を退職した佐治氏の定期的な収入を確保するという意味合いも含まれていた。

（２）　佐治氏がスポンサー探しを行うなか、同年４月、佐治氏は、以前から知己を得ていた立憲民主党の福山哲郎・前幹事長（以下、「福山氏」という）と面会し、資金提供について話をした。福山氏は、フェイクニュースが多く流通し、地上波から政治番組がなくなってきている状況に危機感を覚えており、佐治氏の問題意識に共感したこと、立憲民主党の SNS 対策の一環にもなること、より大きくは「民主主義の装置」としてもそうした取り組みは大事だとの考えから、資金提供の話を承諾した。福山氏としては、CLP が自力で資金調達できるようになるまでの間のイニシャルコストを負担するといった受けとめであった。また、福山氏は、CLP については、YouTube の動画番組を作る組織といった認識であった。

佐治氏は、スポンサー探しについて、工藤氏及び A 氏とも LINE などの手段によって共有していた。ただし、当時は工藤氏及び A 氏とも番組制作会社に在籍し、そこでの業務が多忙な時期でもあったことから、コミュニケーションとしては必ずしも充分な状況ではなかった。

立憲民主党との面談についても、佐治氏は、工藤氏及び A 氏に報告していたが、工藤氏及び A 氏からは、特段の異論は出されなかった。この点について、工藤氏は、「番組制作にかかる費用を自弁しなくてよくなることや、佐治氏の収入確保について目途が立ったことを意味するので、喜んだが、自分自身にとっての収入になるわけではなく、本業の番組制作などに追われていたこともあって、政党から資金提供を受けることの意味について、深く考えることはなかった」といった趣旨のことを、当時の認識として述べている。また、A 氏も、「自分たちがどうなっていくのかの途中で、どういう組織で何をやっていくのかイメージが固まっていなかった。ただ、発信が継続的にできる場所ができるのかと思った。本業も含めてバタバタしていたなかで、立ち止まって考える余裕がなかった」と

述べている。

この時点においても、３氏は、CLP について、「メディア」との認識は有しておらず、特定のテーマに関する番組を配信する「活動」と認識していた。

（３）　立憲民主党から CLP への資金が提供されるスキームについては、立憲民主党の事務局、同党の顧問弁護士、GENAU、佐治氏らが中心となって具体化された。スキームの具体化にあたって、当初、広告代理店とは別の企業がスキームに加わることも検討されたが、最終的に、立憲民主党⇒株式会社博報堂⇒GENAU⇒CLP という形に落ち着いた。広告代理店を通している点について、福山氏は、「党の SNS やインターネット対策、メディアへの出稿などは、全て通すようになっている」といった趣旨のことを述べている。GENAU を通している点については、GENAU の代表取締役である中原大弐氏（以下、「中原氏」という）は、「当時、CLP は法人化しておらず、個人との取引は難しいため、GENAU を窓口にすることになった」と述べている。佐治氏も、「資金提供の話がまとまった時点では、CLP は CLP としての口座ももっておらず、GENAU に受け皿を頼んだ」と述べている。佐治氏は、GENAU の番組制作に関する業務を個人として請け負っていたこともあり、佐治氏と GENAU の関係性、CLP の配信業務を GENAU のスタッフが担っていたこともあって、こうした枠組みは採用されることになった。

資金提供のスキームが決まった以降、CLP の３氏は、GENAU と番組制作費に関する協議を行い、１本あたりの制作費を決めた。そのなかから GENAU は一定額を配信料や事務所使用料として受け取る形にした。また、３氏は、番組の出演者に対しても、謝礼を支払うことを確認した。CLP 側では、番組制作費や出演者に対する謝礼など、経費に関しては A 氏が窓口となり、GENAU に対して請求書を送付するなど実務を担当していた。

（４）　２０２０年５月、CLP は、いわゆる検察庁法案をテーマにした配信を複数回にわたって行ったが、これらの配信は、反響を呼び、視聴回数も多数回となった。検察庁法案をめぐる配信を連続的に行ったことで、CLP の認知度も高まり、社会的な注目も集めるようになった。

３氏は、検察庁法案をめぐる配信を経て、CLP の可能性について自信を深めるとともに、継続的な配信を行うためにも、法人化を目指す必要性を認識するようになった。そうした問題意識を有するようになった結果、３氏は、２０２０年７月に法人登記を終え、同年８月に口座を開設した。代表取締役には、番組制作会社を退職していた佐治氏が就任し、佐治氏のみが株主となった。

（５）　立憲民主党から提供された資金は、CLP の２０２０年３月分から８月分の番組制作費として宛てられた。具体的には、CLP としての口座が開設される以前の時期については、GENAU において、人件費や撮影機材使用料などの精

算処理を行い、各出演者には GENAU から出演料が支払われた。さらに、３氏に対しても、それぞれの口座に報酬として支払われた。CLP が法人化した後には、株式会社博報堂から CLP の口座に宛てて入金がなされた。

立憲民主党から提供された資金が原資となっているものを、３氏が個々に受領した金額は、佐治氏が同年４月から同年９月までの間において月額約５０万円（合計約３００万円強)、工藤氏及びＡ氏が同年６月から同年９月までの間に４回にわたって合計約４０万円をそれぞれ受領している。

立憲民主党が提供した資金の総額は、CLP として正確な金額を把握することが困難であるが、約１５００万円だと推測される。法人化後に CLP として受領した金額は、同年８月から９月までの間に３回にわたって合計４１７万５９０１円となっている。

４　クラウドファンディングの実施について

２０２０年５月の検察庁法案の一連の配信などによって、社会的にも注目されるようになったこと、佐治氏が番組制作会社を退職して専従の形になったことなどから、３氏は、同年６月頃から、CLP の可能性やありかたについて、継続的に協議を行い、そうした協議のなかから、視聴者にサポートされる形での番組制作を目指すことになり、「公共メディア」としての CLP というイメージを抱くようになった。

そうした経緯から、クラウドファンディングを実施することが３氏で確認され、同年７月から募集が開始された。クラウドファンディングの呼びかけ文には、「公共メディアを目指します」ということが謳われ、①自由な言論空間の構築、②メディアを繋ぐメディア、③市民スポンサー型メディア、という３つの理念が示された。

また、同年７月１１日には、クラウドファンディングの開始と支援を呼びかけるツイッターでの投稿がなされ、そこでは「Choose Life Project を公共のメディアとして本格始動させたい！」、「これまで手弁当で運営してきた CLP ですがこの度資金集めのクラウドファンディングを始めます！」という表現が用いられた。あわせて、同年６月頃、ラジオ番組でも、CLP の運営について、佐治氏は、「手弁当でやっている」とインタビューに答えた。

クラウドファンディングは、同年７月１１日から同年９月１０日まで募集され、４３１４人から３１４７万８５００円の支援を受けた。これによる支援額は、手数料１４％を控除された後、同年１０月３０日、CLP の口座に２６６３万０８１１円が入金された。

立憲民主党からの資金提供は、同年８月分までの制作費として継続しているので、クラウドファンディングの募集を開始した時期と立憲民主党から資金の

提供を受けていた時期は、重なっている期間がある。資金提供の終期を同年８月分の制作費までとしたのは、クラウドファンディングの着金が上記のとおり同年１０月であったことから、同年９月の収入を確保するためであった。

５　マンスリーサポーター制度について

２０２０年１０月に、クラウドファンディングによる支援金が CLP に着金して以降、CLP は、マンスリーサポーター制度を実施した。これは、月額１０００円から３万円までの範囲で、継続的に支援を行うものと、任意の金額をその都度支援するワンタイムサポーターという２種類のタイプによるもので、マンスリーサポーターは、２０２１年１２月３１日現在では１８００名以上、２０２２年４月末現在でも１２００名を超えている。

第３　問題の所在と所見

第２で述べた経緯をふまえ、本報告書では、①立憲民主党から資金提供を受けると判断したことの是非、②立憲民主党から資金提供を受けたことを対外的に説明しなかったことの是非、の２点が、本件における問題だととらえることにする。会計及び税務にかかる処理についても、別途問題となりうるが、この点は、公認会計士及び税理士による確認がなされている。

１　立憲民主党から資金提供を受けると判断したことの是非について

①については、政党とのあるべき距離感、あるいは批判対象となりうる相手方とのあるべき距離感という問題として設定することができる。

そして、こうした距離感は、CLP の自己規定の仕方によっても変わりうるものである。この点、資金提供を受けることを決めた時点においては、３氏は、CLP について、いわゆる「メディア」として位置づけておらず、福山氏においても、メディアとしては認識しておらず、SNS 対策の一環という位置づけであった。

もっとも、CLP は、当初から、国政選挙や知事選挙などに際して、それにかかわる内容の投稿を行っており、政党との関係については、慎重な対応が求められる立場にあった。また、メディアとしての認識が存したか否かとは別に、３氏は番組制作会社に在職し、報道番組を制作してきた経験を有していることからしても、政党とのあるべき距離感について、問題意識を有しておくべきであった。

そうしたことからすれば、立憲民主党から資金を提供されて良いか否かは、イロハのイといってもいいほど基本的な問題であり、この点について、３氏において一貫して問題意識がなかったというのは、報道にかかわる者が本来有すべき職業上の倫理観を完全に欠如していたと言わざるを得ない。

３氏それぞれに対する聞き取りに際し、立憲民主党以外の政党からの資金提供であった場合、政党ではない他の企業や団体からの資金提供であった場合など、仮定的な設問を通じたやりとりを交わすなどして、当時の３氏の認識をできる限り正確に把握するよう努めたが、結果としては、政党から資金を提供されることについて、何らの緊張感も有していなかったことが明確となった。

３氏において、CLP をいわゆる「メディア」として位置づけることを意識し始めるのは、クラウドファンディングを実施する直前の時期、すなわち２０２０年６月頃からであり、「公共メディアを目指します」という表現は、こうした３氏の当時の意識とも合致するものである。

配信番組の内容や出演者に立憲民主党を含む政党関係者が含まれていたにもかかわらず、立憲民主党から資金の提供を受けることに何らの問題意識も抱かなかったというのは、お粗末としか言いようがなく、その不明について同情の余

地はない。

また、3氏は、立憲民主党から資金の提供を受けてはいたが、番組内容への影響については、3氏ともこれを否定している。福山氏も、番組内容や出演者の人選について働きかけを行った事実はないとし、その意図もなかったと明言している。出演者に対するアンケートにおいても、立憲民主党に対して配慮するよう求められたり、忖度している様子は見受けられなかったとの結果になっている（資料参照）。もっとも、問題の本質は、そのような実際の働きかけの有無ではなく、公正らしさの点にこそあるということは改めて言うまでもない。

２　立憲民主党から資金提供を受けたことを対外的に説明しなかったことの是非について

②については、①にかかる3氏の問題意識にも連動するところであるが、3氏は、立憲民主党から資金を提供されている事実を、出演者やサポーターなどに対して、説明したり、情報を開示したりしなければならないとの意識をそもそも有していなかった。3氏としては、番組内容は自らの意思決定で制作し、立憲民主党による影響を受けていないことから、それ以上に資金に関する提供元に関する情報の開示が必要だとの認識はなかった。

3氏それぞれに対する聞き取りに際し、テレビやラジオでは番組提供のお知らせがあること、メディアによっては資金提供者を公表していることなど、実例を挙げてやりとりを交わし、当時の3氏の認識をできる限り正確に把握するよう努めたが、結果としては、メディアとしての自己認識がなかったこともあり、説明責任のような認識を有する契機がなかったことが明確になった。

クラウドファンディングやマンスリーサポーター制を実施するにあたって、「公共メディアを目指します」と呼びかけ、「市民スポンサー型メディア」という理念を打ち出し、広範な市民に対する支援を求めたことから、この時点で公表するという判断がありえなかったのかについても尋ねたが、3氏とも、その時点でそうしたことを協議したことはなく、公表しなければならないとの意識もなかったと述べている。

「手弁当」という表現も用いて呼びかけを行ったことについては、佐治氏は、２０１６年の立ち上げから立憲民主党による資金提供がなされるまで間、費用を自弁してきたことや、3氏以外で配信に協力してきたスタッフのなかにはボランティアで立憲民主党から提供された資金を報酬などの名目で渡したこともない人もいたことなどから、自身は立憲民主党から提供された資金を受領していたが、CLP にかかわっている全体のスタッフの状況などもふまえて、「手弁当」という表現を用いたと述べた。クラウドファンディングに応えた視聴者に対して、事実と異なる説明となっているのではないかとの問いには、佐治氏は、「嘘

をついているという感覚ではなく、手弁当的な状況にあることを伝えたかっただけだが、実際には立憲民主党から資金が提供されていたことからすれば、適切な表現ではなかった」と述べた。

３氏に共通する認識は、クラウドファンディングによって独力で運営ができるようになるまでの間、立憲民主党からの資金に依存しようとする考えであったこと、出演者やクラウドファンディングの支援者、マンスリーサポーターなどに対して説明しなければならない事柄だとの認識がなかったこと、説明しなかった理由が積極的に秘匿しようとする意識によるものではないこと、資金提供を受けながら自己認識としては「手弁当」に近い感覚であったことである。

３氏の聞き取りからは、積極的に秘匿しようとしていたとの意識も、出演者や視聴者にことさら事実と異なる説明しようとする意図は感じられなく、ただただ「そのような説明をしなければならないとは思わなかった」とか「これから公共メディアを目指そうとしていた段階であった」といった認識が語られるにとどまった。

これらの認識は、現地に足を運び、取材を重ね、自らのチャンネルで発信し、自らファンドレイジングを行っているフリーランスの立場の者からすれば、およそ信じられないものだと想像される。あるいは、メディアにおいて一定年数のキャリアを重ねた者であっても、違和感を覚えるものだと想像される。そうした信じられない思いや違和感の原因は、おそらく３氏がいずれもテレビメディアの制作部門に所属しており、自身で資金を調達した経験や、広告などスポンサーとの関係でのやりとりをした経験がなく、そうしたことから政党との距離感や視聴者に対する説明責任について、相当の見識を身につける機会がなかったことに求められるように解される。

このように、３氏には、資金を提供された事実を自ら開示し、説明しなければならないとの認識が、そもそも欠如していたのであり、その欠如こそが最大の問題である。客観的には、法人化の際、クラウドファンディングを実施する際、マンスリーサポーター制を導入する際など、資金提供の事実を開示し、説明すべきだと判断しうるタイミングは複数あったが、いずれの時点においても、そうした判断を導く契機に欠けたままだった。番組の内容そのものとは別に、番組がどういう人々に支えられ、どういう資金で成立しているかなど、出演者や視聴者などとの関係で、どの範囲でどの事実を共有する必要があるのかについて、３氏には、立憲民主党から資金を提供されていることについては、共有する必要のある事実だと認識されていなかったこととなる。

出演者の立場からすれば、番組で取り扱うテーマとのかかわりからしても、立憲民主党から資金を提供されていたという事実は、出演するか否かを判断するうえで重要な要素であった。また、視聴者の立場からしても、番組を視聴するか

否か、あるいは CLP を支援するか否かを判断するうえで重要な要素であった。
　そうしたことからしても、3氏が、資金を提供された事実を自ら開示し、説明しなければならないとの認識を欠如させていたことは致命的な部分での欠如であり、出演者や視聴者に対しても、またクラウドファンディングなどの方法で支援する者との関係でも、背信的なものだと評価せざるを得ない。

３　組織化、チェック体制の確立の遅れ

　①と②に共通するのは、佐治氏を除く２人が番組制作会社に在籍しながら、CLP の配信にもかかわる状態にあり、配信回数が増加し、社会的な認知も拡大するなかで、その都度の判断や決定について、多角的な検討を行う余裕がなかったという点である。本来であれば、CLP が注目されるに従い、組織化が進み、あるいは外部によるチェック体制などが確保されていれば、本件は回避しえた可能性が存するところである。配信に追われ、課題を整理し、適切に対応する時間的・精神的余裕がなかったということ、そうした体制を確立しえなかったことも、本件が生じた背景事情として指摘されるべきである。

第４　CLP の責任について

CLP の責任としては、一つには、役員及び株主という人的な観点からの責任がある（なお、すでに、佐治氏は、共同代表の地位を辞する予定であることを公表している）。

CLP を立ち上げた３氏のなかでも、とくに佐治氏については、立憲民主党に対して資金提供の実現を主導してきた経過があること、受領した額も他の２氏よりも相対的に多いこと、代表としての地位に就いている期間も工藤氏よりも長いことからすれば、佐治氏の負うべき責任は、工藤氏よりも重いというべきである。

また、工藤氏は、CLP の役員に２０２１年７月に就任しており、役員として、本件に対する責任は免れない。実態的にも、立ち上げメンバーの一人として、CLP の立ち上げ時から関与してきたものであり、受動的な関与ではあったと認められるものの、立憲民主党からの資金の提供についても、クラウドファンディングを募集し、マンスリーサポーター制を導入する際にも、疑義を挟み、判断を是正することをしなかった。

佐治氏及び工藤氏の２名については、役員として、株主として、それぞれの責任の重さに従った行動が求められるところであり、２名において検討されるべきである。

CLP の責任として、いま一つには、財政的に支援をした支援者との関係での物的な観点からの責任がある。

クラウドファンディングによって、４３１４人から３１４７万８５００円の支援を受けているが、かかる支援を行った者は、立憲民主党から資金を提供されていた事実を知らないのであり、知っていたならば異なった判断をした可能性もある。

そうであれば、返金を希望する者に対して、受領した金員の全部または一部の返還を行うのが、責任の履行としてより適当だと思料される。

さらに、本報告書とは別に、役員が、マンスリーサポーターなどに対して、直接本件の経緯と自らの見解などについて説明することも不可欠である。

報告書の作成者としては、上記３点の履行を求めるものである。

第５　ヒアリング要旨

福山哲郎氏（前・立憲民主党幹事長）

・佐治氏との出会いについて

佐治さんとは、２０１９年の４月頃に会ったのが初めて。それ以前にも勉強会などで同席していたはずだが、すれ違ったくらい。

初めて会ったときに、CLP の名前まで出していたかは定かではないが、「今の報道の番組には色々問題も感じているので、何らかの形で YouTube の番組を作りたい」という話をしていて、非常に共鳴した。

・資金提供の経緯について

今回の件で佐治さんと会ったとき、佐治さんからは、テレビの地上波では政治を扱う番組がほとんどなくなってしまったので、何らかの形で今のメディアに対抗するような番組を作りたいというような話が合った。その当時、お金を集めるのに苦労していたようで、多少スタート資金を協力してくれないかということだった。

佐治さんの方のイメージはランニングコストのイメージで、月に一定の金額が入ってくると、番組作りのベースが読めたのだと思う。それでも相当切り詰めてやっていこうとしていたように感じた。立憲民主党の事務方と CLP とのやりとりのなかで、立憲民主党の SNS やインターネット対策、メディアへの出稿などは、全て博報堂を通すようになっているので、広告代理店を経由する形にして、一般制作費という名目で支払うことになった。

どのくらいの期間支払うのか、いつまでなのかということは決めていなかった。どんな番組になるか、番組がどの程度の頻度で出されるのかもわかっていなかった。

CLP の側と金額なども含めて話し合いが済んだのは、２０２０年４月の中旬から終わりにかけてだと思う。

・CLP の番組への働きかけの有無について

CLP の番組について、働きかけたりしたことはない。その考えもなかった。それ言い出したら番組を全部チェックしなければならなくなる。

資金提供をすることにした理由は、フェイクニュースが横行していたり、地上波から政治番組がなくなったりということに対して、佐治さんが持っていた問題意識に共感したから。実際、今の地上波では、幹事長同士の討論なども自民党が出てこないと企画がつぶれてしまい、番組にできない状態。この数年そういう状況が横行していた。番組が成立せず、討論も

できないと自分たちが訴えたいことも伝わらない。
　佐治さんが構想しているような討論番組が YouTube で展開されて一定数見られるようになることは、一定の民主主義の装置として必要だと思った。
　立憲民主党に有利になるとかはそれほど考えていなかった。検察庁法改正のときの番組は見たり、自分もいくつかの CLP の番組には出たりしたが、頻繁に見て、内容をチェックするということはなかった。立憲民主党に対して批判的な番組もあったと思うが、それも含めて民主主義の装置として大事だと思っていた。
　佐治さん以外の CLP のメンバーとは会ったことはないし、佐治さんとも資金提供の話をした以降は会っていない。

・CLP に対する認識について

　CLP については、佐治さんらが YouTube の番組を作る組織という認識だった。通常のテレビ番組だったら、資金を提供することはなかった。
　立憲民主党としても、Twitter などの SNS 対策はやってきた。ネットで国会討論番組を作って Twitter で流したり、YouTube でも国会チャンネルをやったりするなど、一定の活動は立憲民主党の広報戦略としてやってきていたので、その延長線上で CLP のことも考えた。

・資金提供の終了の経緯について

　視聴者が数万人に増えたことから、独自にファンドレイジングをするという話を聞いて、２０２０年８月頃、「もうお金は結構です」という話を佐治さんからもらった。

・政党とメディアの関係について

　CLP のことを別にして、放送法上の公正さとは何をもって公正とするのかが時代によってずれてきていると感じている。意見の違う人間を呼んで、平行して喋らせて、あとは有権者が判断してくださいというのは、到底公正だとは思えない。一概に公正論を振りかざすのは、どうかなと思っている。この１０年、日本のメディアは歪んだと思っている。
　イシューや時代に対して、その番組がどういうポジションでそのイシューについて捉えているのか。それに合った専門家や政治家を呼んで、どう議論として習熟させていくのかまでやらないといけないと思っている。
　たとえば、昨年の衆院選では１回もテレビで幹事長討論はなかった。自民党の総裁選は毎日ように放送していた。こういう部分をちゃんとバランスをとって、テレビ局も含めたメディアは有権者に一定の材料を渡すようにしないと、有権者はますます政治に関心がなくなる。テレビが怖がらずに、みんなの理解がもっと深まるように、政治家や専門家を招いて議

論しないと、政治的な議論が熟さないという危機感をもっている。
　メディアと政党がお金を介在して関係することについていえば、立憲民主党を立ち上げたときは、本当にお金がなかった。自民党は政党交付金があり、テレビ CM もバンバン打っていた。CM を打てるということは、テレビにとってはスポンサー。１回の選挙で２０億円使うところに、番組作りでテレビは本当に配慮しないのか。そういうことを突き詰めて言うと、政党とメディアの CM の関係って今でもアンバランス。有権者がどの程度それを斟酌してくれるのか、僕らは不安に思っている。
個別のイシューでも、例えば原発に関していえば、各電力会社は多額のスポンサー料を払っている。その時にテレビで原発に関して、本当に公正な議論の土壌が作れるのか。この永遠の課題に答えはないが、こういうことが背景にあるということがわかった上で判断できる状況を作りたい。
　今回の件は、有権者とメディアの関係や、何を伝えるのかという課題などが詰まっていた事例だと思う。

中原大弐氏（株式会社 GENAU 代表取締役）

・佐治氏との出会いについて

安保法制の取材をしている頃に知り合った。国会前に取材に来ていて、当時は少し言葉を交わすくらいの仲だった。

その後、勉強会などでも会うようになったが、本格的な友人関係になったのは２０１９年頃だと思う。すでに彼らは選挙時に動画で投票を呼びかけるなどの活動はしていた。

佐治さんからは、会社を辞めるという話を聞いたことがあり、本当に辞めるのかと、思いとどまるように言ったこともあった。佐治さんが会社を辞める頃から、熊本の震災後のプロジェクトなど、GENAU の仕事のいくつかをお願いした。

・立憲民主党からの資金提供を受ける経緯について

佐治さんが、スポンサー探しをしているのは知っていた。自分も立憲民主党の福山さんのことは取材もするので知っていたが、ジャーナリストという立場から福山さんを紹介することはできないと断った。

佐治さんからは、立憲民主党から資金を提供してもらえることになったと、ほぼ話が決まった後に話を聞いた。そのときには、CLP は法人化しておらず、個人では受け取れないので、GENAU の口座を受け皿にしてほしいという話もあった。

政党から資金提供してもらうことについては、もちろん議論はあって然るべきだが、当時は立憲民主党からだけでなく、いろんなところから資金提供してもらうというコンセプトだったと思う。佐治さんは、他にもスポンサーを探すと言っていた。

・CLP との資金提供のスキームをめぐる協議について

基本的には佐治さんとのやりとりが中心だが、資金提供の話が決まってからは、会計を担当していた A さんとのやりとりをするようになった。

GENAU が窓口となるにあたって、CLP に対して条件を付けた。１つが、早く CLP を法人化させること。もう１つは、それまでは GENAU のスタッフがボランティアでかかわっていたが、トンネル会社や架空取引のようなことはできないので、スタジオ使用料や配信技術を提供するスタッフの人件費、配信システム使用料などの費用を請求するということ。

立憲民主党から実際に資金が提供されるまでの間は、GENAU で費用を立て替えていた。

CLP が法人化されてからは、GENAU の口座を通さない形になり、GENAU は CLP に対して配信料などの請求書を出すような形になった。

・CLP に対する認識について

CLP については、メディアかというと、ちょっと違うと思っていた。もともと課外活動としてやっていたし、メディアを作るというより、とにかく政治報道のなかで自民党の話しかニュースで放送されないこと、フェイクニュースに対する危機感があって、そのカウンターのようなものを考えていたと思う。

立憲民主党から資金を提供してもらうという話も、メディアというより課外活動なんだから、そこまでやりたいと思うならやったらいいんじゃないのと思った。CLP は検察庁法の改正で注目されるようになったけど、それまではメディアというより、アクティビストに近い、YouTube の番組という認識だった。自分だったら絶対に資金提供は受けない。

CLP がメディアのように言われることには違和感があった。YouTube をメディアかというと、違うだろうと思っていた。メディアというのは取材を重ね、事実を発信していくものだと思っている。CLP は取材をしてなかった。CLP の活動は、東浩紀さんなどがやっている「リベラルな言論活動」というものに近いと思っている。佐治さんもジャーナリストと名乗ったことは一度もないと思う。ただ、彼らの番組の質は高いと思っていた。立憲民主党の代表選の時も一番厳しい質問をしていたのは CLP だった。あと、画期的だったのは、出演者のパリテを採用したことだと思う。

この間思うのは、佐治さんは、なぜ自分でお金を工面し、今回の件で責任を取ろうとしなかったのかということ。GENAU としては、良かれと思って協力したのに、こういう形になってしまったことは、非常に迷惑な話でもある。今になって「間違っていた」と言うなら、最初からもらわなければ良かったし、市民メディア、公共メディアを名乗ると決めた時に、どういう形でもいいから借金して立憲民主党に返したらよかったと思う。もっと言えば、最初から立憲民主党に頼らないで、借金すればよかったと思う。

A 氏（CLP 立ち上げメンバー）

・CLP 立ち上げの経緯について

２０１６年の参院選前から、佐治さん、工藤さんとは知り合いで、普段から「もっと政治がみんなに近いものになったらいいね」、「もっと多くの人が投票に行くようになったらいいね」と話していた。そういう話題を気軽にできる社会になるために、自分たちは何ができるのか考えたときに、選挙に行こうと呼びかける動画を作ってアップしようとなった。当時は配信という形でなく、YouTube、Twitter、Facebook にアップする形だった。

もともと３人は同じ番組を担当したことはなかったが、同じテレビ局で働いていたこともあり、興味関心のあるテーマが似ていて、自然と話をするようになっていた。

立ち上げの当時は、業務外の時間を使ってのサークル活動のような感じで、組織にもなっていなくて、とくに役割分担もなかった。佐治さん、工藤さんの２人は編集ができるので編集を担当するなどは決まっていたが、投票動画で誰にインタビューするのかなどについては３人で話し合って決めていた。

立ち上げ段階では、どういう団体や組織なのかとかは考えていなくて、仲間と一緒に呼びかける行動のような認識だった。毎日やっているわけでもなく選挙前だけの活動だった。発信はしているが、メディアという認識はなかった。

立ち上げたときは、２０１６年の参院選のときにとりあえずやってみようくらいの意識で、それ以降の選挙でも続けて活動していこうということは決まっていなかった。活動にかかった費用は、自分たちで出していて、インタビューさせてもらった人への謝礼も払っていなかった。

・GENAU とのかかわりについて

２０１９年の年末に、GENAU の人たちが力を貸してくれて、投稿でなく、生配信という形で、その年の政治的な出来事を振り返る番組をやった。そのときは出演者に謝礼を払ったが、それは３人が自腹で払った。配信は協力者の人たちがボランティアで手伝ってくれた。この番組がきっかけで配信という形でやっていこうという方向性が定まりつつあったが、２０２０年１月、２月はまだ動画を投稿する形だった。

GENAU のスタッフのなかには、最初の配信の前から知り合いだった人もいて、そういう関係から配信などを協力してもらった。佐治さんが会社を辞めて、配信が本格化していくなかで、GENAU に配信などをサポートしてもらうことになったのも、こうした経緯から自然なことだった。

・資金提供の経緯について

佐治さんが会社を辞めるということになり、生活はどうするのか、そのためにも何らかの形でお金は得ないといけない、会社にもなっていない段階で寄付を募るにはどうしたらいいだろうかという話はしていた。佐治さんがスポンサーを探すということになったが、具体的に佐治さんがどういうところにお願いに行っているのか、どういう話をしているのかは、自分が紹介したところを除いては詳細を把握していなかった。

２０２０年３月に、佐治さんから立憲民主党が支援してくれるかもしれないといった話を聞いた。その後、佐治さんから LINE 経由で報告があったりもした。佐治さんが、立憲民主党の顧問弁護士と会って、資金提供のスキームについて受けた説明内容を、私と工藤さんにも共有した。

ただ、当時は自分たちがどうなっていくのかの途中で、どういう組織で何をやっていくのかイメージが固まっていなかった。イメージが固まってないなかで、資金を受けられるのかという感じだった。

資金提供の話が決まったという報告を受けたときには、発信が継続的にできる場所ができるのかなとは思った。当時は本業も含めてバタバタしていたなかで、立ち止まって考える余裕がなかった。

資金提供の話が決まってからは、GENAU との間で、番組制作の費用について話し合い、３人からこれくらいの金額で協力してもらえないかというお願いをした。

資金提供してもらえる期間については、ごく短期間だと思っていた。動きながら考えているなかで、２０２０年５月の検察庁法改正のときに連日生配信やって、こういうことを「市民メディア」としてやっていくのかなとは思ったが、まだそのときは法人にするのかどうかも決めきれてなかった。クラウドファンディングを募ろうという話になった時に「もうやめよう」となった。

資金が最初に振り込まれたのは２０２２年６月で、そこから９月まで報酬をもらった。１カ月に１回で１０万円。工藤さんも私もいろいろと作業をしていたので、それに対する報酬ということだった。

・資金提供の事実を対外的に説明してこなかったことについて

資金提供を受けていたことについて、後ろめたい気持ちがなかったわけではないけど、検察庁法案の時期などは市民からお金をもらっている段階ではなかったし、政治的なイシューを扱いながらも立憲民主党のために番組を作っている意識はなかったので、余計な誤解を呼ぶようなことをあえて言わないという感じだった。佐治さん、工藤さんもそうだったと思う。

もともと資金提供は短期間と決めていたが、市民メディアとしてやっていこうと決めた

時に立憲民主党からお金をもらうことはやめようと決め、立憲民主党にも伝えた。
　市民からお金をもらうようになり、独立メディアと名乗るようになってから、きちんとした線引きが必要だ、独立メディアとしてやっていくためには何が必要なのかを考えるようになった。
　出演者に対して、資金提供の説明をするかどうかについて議論したことはなくて、あえて言わなくていいか、という感じだった。クラウドファンディングを実施するタイミングに合わせて、資金提供を受けていたことを公にするかどうかという議論もなかった。テレビでスポンサーから資金提供を受けるときには、提供社名を表示しているが、そうしたことをしようという議論もなかった。
　この点について、みなさんから指摘を受けているが、問題意識を持つようになったタイミングは、少し遅かったと思う。２０２０年５月下旬に立憲民主党からの着金があって徐々に問題意識を持つようになったが、市民メディアの道が見えクラウドファンディングをしようとなったときに、この状態を続けるのは良くないと思うようになった。
　立憲民主党側から、番組について何か言われたことはない。

・CLP 内での役割について

　法人化する前は、GENAU の口座に入金があり、出演者への支払い、経費の精算も GENAU の担当者が作業していた。CLP 側の窓口が私で、出演者リストなどを作って、GENAU 側の担当者とやり取りしていた。お金の管理、入出金リストは GENAU が作ってくれて、私たちに共有してくれていた。
　２０２０年７月に CLP を法人化して、８月に口座ができてから私が経理の担当になった。税理士を頼み、税理士から求められた支払い一覧などをエクセルで作って送るようにしていた。佐治さん、工藤さんにも共有していたが、振り込み事務は私がしていた。事務の取りまとめという感じだった。マンスリーサポーターを集まめるようになってからは、別の人に事務や経理をお願いするようになった。

・いま振り返って

　色々と批判をいただいているが、それぞれの指摘を素直に受け止めている。
　何が問題だったのか、なかなか一言で言うのは難しいが。立ち上げのバタバタしていた段階も含めて、もっとその時々で立ち止まってちゃんと考えるべきだったと思う。あと、もっと早く整理ができていたらと思う。

工藤剛史氏（CLP 共同代表）

・CLP の立ち上げの経緯について

佐治さん、A さんと私という CLP 立ち上げの３人は、職場の先輩後輩や、その関係から紹介されて知り合いになったような人で、いずれも考え方の近い。報道番組を制作するなかで、不満というか、もう少し“攻めたい”、もう少しいい報道をしていきたいという気持ちがあった。それが２０１６年の参院選のタイミングだったので、YouTube で投票を呼びかける動画の配信プロジェクトをやろうかという流れになった。

ただ、プロジェクトとして始めたといっても、団体だという認識は、正直そんなになかった。１回目のときはとりあえず参院選をやってみようという感じだった。youtuber がまだ憧れの職業と認知される前だったが、動画を出すんだったら、プラットフォームは YouTube かな、くらいの感じだった。テレビでやりにくいことを、別の自己実現の活動で模索するというところまでしか考えていなかった。

この時点で、いわゆるメディアだという自覚は１ミリもなかった。インタビューに対する謝礼も、報道畑出身なので、お金を発生させないでインタビューを取ることが染み付いていて、最初から払うことは考えていなかった。そもそも支払える資金力もなかった。取材経費も全部自腹だった。

２０１９年１２月に初めてスタジオトークっぽいことをやるときに、配信技術が私たちディレクターだけではできないので、GENAU のスタッフに協力をお願いした。このときは、GENAU の協力者には報酬などは支払っていない。スタジオトークだったので出演者にはギャラを支払わないといけないよねとなって、佐治さん、A さんと私がそれぞれ数万円ずつ出した。

・資金提供の経緯について

佐治さんが会社を辞めるという話が２０２０年になってから出て、どうやって生きていくのかなと思った。スポンサー探しについても、佐治さんの生活費をどうするのかという認識だった。ただ、スポンサー探しをしているという話は聞いていたが、詳細を把握していたわけでもなく、３人で打ち合わせなどをしていたわけでもなかった。

佐治さんが、立憲民主党の福山さんと会ったという話も後から聞いたという記憶だ。資金提供を受けられることになったと聞いたときの第一印象は、「え、なんでもらえるの？　ほんとに？」というものだった。その次に、「もらえるなら活動の幅が広がるよね」と思った。佐治さんの生活費もそこから出せるし。当時、私自身は、お金の性質について疑念を持つことはなかった。

政党からお金をもらうということについて、当事者意識が希薄だったと言われればそれ

までだが、当時は何か問題だとは全然思わなかった。自分のなかでは、CLP というより、佐治さんが佐治さんのためにとってきたという印象が先に立っていた。

お金の入り方のスキームなどの話については、私はわかっていなくて。GENAU の中原さんも含めた４人の話し合いで、番組１本あたりの制作費などを整理しておかないと、という話はした。広告代理店を経由してお金が入ってくるということも聞いていたが、どういうルートでお金が入ってくるのかということには関心がなかった。

資金提供を受けることになって、自分も月に１０万円をもらうことになったが、そのことについては、本業の報道ではなく、休日などの活動だし、しかもどちらかというとヘルプ的な役割という意識があって、対価としても自分の働きに対してフルでもらっているわけではないからといった形で正当化していたように思う。報道番組を作っているという意識まで到達しておらず、佐治さんが CLP を本業にする過程をヘルプしている感じでいたし、２０２０年５月の検察庁法で大きな反響が起きたときでも、自分では報道をやっている意識にはなっていなかったかもしれない。明確なビジョンを持たないままで、とくに私はお金について考えないまま進んでしまって。検察庁法の件もあったので、立ち止まる感じがないまま走っていっていた。私も他人任せだった。

私が報酬をもらったのは２０２０年６月からだが、そもそも私も A さんも本業がありながら、かなりのエネルギーを CLP には投入していたので、佐治さんだけが報酬をもらうのはおかしいのでは、という話になり、私たちももらうことになった。だが、私はもらうとき、一瞬の逡巡があった気がする。自分がもらうときに初めて、ちらついた。でもさきほど述べたように、自分のなかで正当化していた。私は CLP のコアな制作者の一人だったが、CLP＝私ではなかった。

資金提供の期間については、そんなに長く続く話ではないと思っていた。検察庁法の後にクラウドファンディングと法人化の話が出る段階で、クラウドファンディングでちゃんとお金が集まったら、こういうまとまったお金を一つのところからもらわなくて済むかもとは思った。

・クラウドファンディングの経緯について

クラウドファンディングの話は、佐治さんが検察庁法の終わった後、２０２０年６月頃に言い始めたと思う。いつまでも立憲民主党からもらい続けることはできないし、ちゃんと自立できる形にしようという問題意識だった。検察庁法のときに大きな注目を集めたので、クラウドファンディングができるという判断だったのだろう。

佐治さんがクラウドファンディングの呼びかけ文章のたたき台を準備してきて、そこに公共メディアを目指すという文言があって、それをもとに話し合いをした。公共メディアといったとき、私は市民サポーター制度を想起したので、それを明記しようと言った。そういう意味で、クラウドファンディングの文言を固めるときに、ある程度ビジョンについて話を

したと思う。そこでメディアというものを意識したと思う。
　Twitter で「手弁当」という言葉を使っていたことについては、感覚としては、２０１６年からの活動、２０１９年にも自腹で払ったし、報酬をもらうようになってからも労働の対価としてプラスを感じたことはなかったので、基本は持ち出し感というのは、ずーっとあった。立憲民主党に対する当事者意識が持ちにくかったことも手伝って、私の中では手弁当感、自腹感はずっと継続していた。そうしたことから、Twitter の「手弁当」という文言を見ても、違和感がないままだったんだと思う。認識としてはそうだった。しかし、「手弁当」という言葉はやっぱり誤解させる側面はありますね。

・いま振り返って

　いま振り返ると、私自身は、自分で CLP を運営しているという認識を持てないできていて、私がガッツリ入っていくのは、サポーター制度を確立するところから。それまではあまりタッチしていないというか、むしろタッチしないようにしてきたというか、とくに運営にはあまり興味がなかった。基本、作りたいものを作るというか、それが私の基本的な CLP とのかかわりだったので。私がメインでやる番組についてはほとんど私がキャスティングしているし。そのために CLP を利用させてもらっていたという認識。
　出演者のなかには、この手のお金を受け取りたくないと人がいたかもしれないのに、そのことについて事前に説明する意識が欠如していた。それが一番の問題だと自分としては感じている。出演者にはジャーナリストで厳格な報道倫理を持っている人がいるのに、その人たちが絶対にさわりたくないと思うお金を掴ませていたというか、そのことに対しては申し訳なく思う。
　サポートしてくれた人たちに対しても、私は騙したとか、隠していたという意識でもないのだが、騙されたと思う人がいるなら、誤解を解くように努力を尽くしていかないといけない。
　そもそもメディアを名乗る以上、政党からの資金提供や、スポンサーを公にしないということは、すべきでなかったと思う。

佐治洋氏（CLP 共同代表）

・CLP 設立の経緯

もともと３人とも TBS のニュース番組などを担当していた。興味関心が似ていて、取材先や内容も被っていたことから、既に知り合いだった A さんから工藤さんを紹介された。

ChooseLifeProjet という名前には「主体的に選ぶ」という思いを込めているが、数で押し切られた安保法制を目の当たりにして、報道現場にいながら民主主義を問えたのか、今のテレビで出すべきニュースを出せていないのではないかという問題意識を３人とも持っていた。本業もあるなかで何ができるか考えた結果、２０１６年参院選から著名人や文化人に投票を呼びかけてもらう動画を作り出した。

当初は映像プロジェクトとしてやってみようというぐらいの気持ちで、団体として大きくしていく考えもなかった。独立するつもりもなく、テレビの仕事をしながらというつもりだった。

投票動画には無料で出演してもらい、自分たちも休日を使って、カメラや編集用のパソコンも持ち出しでやっていた。２０１６年参院選、都知事選、２０１７年衆院選、２０１８年沖縄知事選、２０１９年参院選まで同じ状態だった。

だが、２０１９年夏頃から投票を呼びかけるだけでなく、もっと違うことをやらなければと思うようになり、その年の年末に初めて、望月衣塑子さんや中野晃一さんに出演してもらい、GENAU に配信を手伝ってもらって、番組を制作した。その手応えから、テレビでしか作れなかった「番組」が GENAU の配信技術を使えばできるという可能性を感じ、会社を辞めて CLP をやっていきたいという気持ちになった。

・中原氏（株式会社 GENAU 代表取締役）や株式会社 GENAU との関係

GENAU 社長の中原さんとは、安保法制の取材を通じて知り合った人を介して知り合った。その後、２０１９年頃から親しくなり、僕が制作会社を退社する前後から独立のことで相談にも乗ってもらっていた。生活費を稼ぐために、GENAU から動画制作（熊本地震や岡山の豪雨の災害支援をしている NPO のもの）を発注してもらっていた。

中原さんにテレビではできないことが多いこと、投票呼びかけ動画だけでなく何か他にできないかという相談もしていた。番組配信の構想を話した時には「いいじゃないですか」と言われたが、退社を決めるにあたっては、「本当に辞めるんですか」と言われていた。

僕たち３人は取材や編集はできるが、配信技術を持ち合わせておらず、動画を YouTube にアップさせる方法やツイッターなど SNS の運用もできなかったので、GENAU のスタッフにはいろいろ教えてもらった。

２０１９年末に GENAU の配信技術を見て、CLP の可能性と方向性を見出した。GENAU なしで CLP はここまで大きくなっていないし、それは僕と工藤さんの間では今でも変わらない。ただ当初は GENAU を高く評価していた A さんは、途中からその思いが変わっていたようだ。

・立憲民主党からの資金提供を受ける経緯と関係

２０１９年１２月の配信時には出演料やフリップ制作代などにお金がかかり、１人５万円ずつ持ち出した。GENAU には無償で配信を手伝ってもらったが、自分たちがこだわるクオリティで継続していくならお金が必要だと思い、配信後ある市民団体に資金の提供のお願いに行った。２０２０年年明けからは資産家や企業２、３社にも行った。電話でお願いした人も含めると１０件弱。なかには「出すよ」と言ってくれた人もいたが、話はその後続かなかった。

福山さんは勉強会や取材で会っていて知らない仲ではなかったが、実際に会いにいくまで、立憲民主党が話を聞いてくれるとなっても、最初はまさか実現するとは思っていなかった。もともと GENAU が立憲民主党の広報的な業務を受託していた関係で、スタッフが立憲事務局に打診してくれた。

福山さんと会ったのは２０２０年４月の１回で、「フェイクニュースに対抗するメディアを作りたい」と話し、パワーポイントで作った資料や２０１９年に配信した番組を見てもらって、その場で「ほぼお金を出すことに決めた」と言われたが、具体的な金額の話や出し方は後でとなった。

当時はお金を出してくれるなら自民党でも公明党でも共産党でもどこでも、という気持ちで、お金の性質に対して深く考えていなかったことは反省している。

だが、今のマスメディアが「公正に」発信している情報量を見ても、与党と野党の情報量は８：２くらい。その情報量格差がある構成をずっと作ってきて、テレビの「中立性」に強い違和感を抱いていた。立憲民主党を応援したい気持ちが１ミリもないわけではなく、自民一強に対抗してもらいたいとも思っていた。当時は安倍政権下で、公文書の改ざんなどもあり、民主的なものが崩壊していく中で、「このままではまずい」という危機感もあった。

福山さんからは「お金を出す」と言われた時も、「立憲民主党のことは気にしなくていいから」「一切忖度しなくていい」と言われた。実際、福山さんから直接連絡が来ることも、GENAU を通して何か言ってくることも一切なかった。どこかの段階で「こういうものを作ってほしい」とか番組内容にクレームが来ていたら、その瞬間にお金をもらわないと決めたと思う。

立憲民主党に資金提供のお願いに行く前に、CLP の３人でこの話は共有しているが、その時には他の２人からも異論は出なかった。スポンサーとして「立憲民主党」という名前を出すかどうかという議論もなかった。工藤さんは、僕の生活費をどうするのか、という心配

をしていた。
　テレビをやっていたのでスポンサーを探すという感覚で、特定の政党からだけでなく、自民から共産まで全党出してくれたらという意識があり、紹介者がいたら自民党にも会いに行っていたと思う。政党から資金をもらうことへの異論はなかったが、お願いに行くのは自分たちの理念に共鳴してくれる人や団体という形で選別はしていた。

・CLP の資金提供のスキームをめぐる経緯

　福山さんと会った後に、GENAU と立憲民主党事務局、僕らで金額について話した。その頃から GENAU の中原さんも話には入っていた。GENAU への配信料や、番組制作費の見積もりなどの話をした。
　当初、立憲民主党側からは、広告代理店とは違う別の会社を通して支払うということだったが、最終的にはいつも使っている広告代理店を通してくれということになり、見積もりは広告代理店宛に作った。当時 CLP は法人化しておらず口座もなかったので、法人化するまでは GENAU に資金の受け皿をお願いした。GENAU と広告代理店との契約書は見ていないので細かい契約内容はわからないが、見積は動画１本の制作費で出し、僕たちからは動画制作一覧を GENAU に出していた。その月の本数によって全体の金額が変わり、月の上限額は決まっていなかった。
　中原さんとの間では、GENAU の事務所や機材の使用料、配信スタッフの人件費など実費としていくら払うかを話した。映像業界としてはありえないぐらいの低価格で引き受けてくれて、相当赤字だったと思う。中原さんからは早く CLP を法人化してほしいとも言われていた。もし、GENAU と関係ないところから資金提供を受けられるとなったら、受け皿として　CLP をもっと早く法人化していた可能性もある。
　立憲民主党からお金が出たのは３月から８月までの制作分で、GENAU を通したのは２回。７月に CLP を法人化して８月には自分たちの口座ができたので。その２回は GENAU から出演者への出演料など必要経費や、僕たち３人の人件費も払ってもらった。立憲民主党からの入金があるまでは GENAU が立て替えてくれていた。５月の検察庁法案関連番組から出演者に出演料を払うようになったが、誰にいくら払うかなどは A さんと GENAU の経理担当者でやりとりしていた。僕は専従だったので月５０万円、あとの２人は月１０万円ずつもらっていた。

・CLP３人の方向性と法人化

　CLP を本格稼働させるために僕が退社する選択肢は３人で共有していたが、当面は僕がフリーランスで仕事をしながら、並行して CLP の活動をするぐらいに考えていた。テレビなどマスメディアが発信する情報量やネットメディアの言説に対抗するには情報量が大事

だと思っていたので、どれだけ存在感を出すかに重きを置いていた。発信する内容も、不公正な社会状況やネットに横行している差別的な発言、ヘイトやデマにどう対抗していくかという意識はあったが、具体的には定まっていなかった。

当初は、メディアというよりテレビでできないことを YouTube で動画を出すぐらいのイメージだったが、転換点は２０２０年５月の検察庁法改正。注目され、CLP に求められているものを初めて体感して、そこで自分たちの役割や、メディアとは何かをお金の件も含めて改めて考えた。

立憲民主党からもずっとお金をもらい続けるつもりもなく、半年ぐらいのつもりだった。政治状況によっては立憲民主党という政党がなくなる可能性もあるので、そこに頼らずどう収益を得るのかは考えていた。最初は企業や個人、政党などのスポンサーを探す意識しかなかったが、検察庁法案への反響を受けて、純粋に市民メディアというものができないかと考え、クラウドファンディングという話になった。

どのくらい集まるかはわからなかったが、まずやってみようと。その時に初めて「自由で公正な社会」のために「公共メディアを目指す」という理念を掲げた。同時に大口の資金提供者なしで本当にできるのかという不安もあった。

今回の件が明らかになり、この時に立憲民主党からの資金提供を明らかにしておけば、という指摘はあったが、そういう考えが思い浮かばないぐらい、ひらすら配信をしていた。

クラウドファンディングではひと月の運営費を２００万として４カ月分８００万を目標にしたが、結果的に約３０００万円が集まった。その資金で運営している間に市民サポーター制を整えようとした。クラウドファンディングの目標額を２日で達成したときに、もう立憲民主党からお金はもらえないと考えた。

・今回の件をどう受け止めているか

いま思えば、クラウドファンディングを始める時に立憲民主党からの資金提供を公表しておけばという思いもあるし、資金提供が決まった段階で全てオープンにしておけばという反省もある。立憲民主党からの資金提供を知っていたのは僕ら３人と中原さんなど GENAU のメンバーだけだが、誰からも資金の出所を明らかにした方がいいのではという議論はなかった。正直、自分たちがここまでできると思っていなかったということが大きい。

「手弁当」ということを強調していたことも非難されているが、スタッフの中には実際ボランティアの人もいたし、GENAU にも十分支払えておらず、自分たち３人も５月末に入金があるまでは無償で働いていたので、「手弁当」という感覚だった。全部で１５００万というと結構もらっていると思われるかもしれないが、映像業界の感覚では「やりがい搾取」くらい低い金額で、無償で働いてもらっていた人もいたので、自分たちは基本ボランティアの感覚だった。

今回、この問題が明らかになり、「これはステルスマーケティングではないか」と指摘さ

れるまで、恥ずかしながら「ステマ」ということも知らなかった。そういう意味ではネットメディアで問題になっていることにも疎く、稚拙だった。知識もなく、ネットメディアとは何か考える時間もないままに走ってきたことが原因だと思う。もっと他のネットメディア経験者の話などを聞いていれば。やっと独立メディアができたのに裏切られたという思いをサポーターや出演者、協力してくれた人たちに持たせてしまったことには本当に申し訳なく感じている。

ただ、番組制作で立憲民主党に配慮したことも一切なく、福山さんからも内容については何も言われなかったので、立憲民主党の広報番組を作ったつもりはない。

Choose Life Project 全配信内容

期間	2016年7月4日～2021年12月28日
全配信数	371本
出演者実数	519人
出演者延べ数	1,234 人

年	月	配信日	配信内容／タイトル	月配信数（本）	出演者数（人）	YouTube保存分類
2016年	7月	2016-07-04	「7.10参院選」vol.1 是枝裕和監督	9	1	動画
		2016-07-05	「7.10参院選」vol.2 髙田延彦（元総合格闘家・タレント）		1	動画
		2016-07-06	「7.10参院選」vol.3 下岡晃（「アナログフィッシュ」ボーカル）		1	動画
		2016-07-06	「7.10参院選」vol.4松尾貴史		1	動画
		2016-07-07	「7.10参院選」 vol.5 平田オリザ（演出家）		1	動画
		2016-07-08	「7.10参院選」 vol.6 大林宣彦（映画監督）		1	動画
		2016-07-09	「7.10参院選」vol.7 麿赤兒（舞踏家・俳優）		1	動画
		2016-07-09	「7.10参院選」 vol.8 想田和弘（映画作家）		1	動画
		2016-07-28	第二弾「7.31都知事選」		7	動画
2017年	10月	2017-10-22	第3弾 「10.22 衆院選」	1	4	動画
2018年	9月	2018-09-19	第4弾「9.30 沖縄県知事選」vol.1 古謝美佐子(沖縄民謡歌手)	15	1	動画
		2018-09-19	「9.30 沖縄県知事選」vol.2 周防正行 (映画監督)		1	動画
		2018-09-20	「9.30 沖縄県知事選」vol.3 ラブリ (モデル)		1	動画
		2018-09-22	第4弾「9.30　沖縄県知事選」vol.4 小波津正光（お笑い芸人　まーちゃん）		1	動画
		2018-09-22	第4弾「9.30 沖縄県知事選」vol.5 東ちづる（俳優）		1	動画
		2018-09-23	「9.30 沖縄県知事選」 vol.6 内田樹(思想家)		1	動画
		2018-09-24	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.7 宮本亜門 (演出家)		1	動画
		2018-09-25	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.8 池澤夏樹 (作家)		1	動画
		2018-09-25	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.9 大工哲弘 (島唄者)		1	動画
		2018-09-26	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.10 宮沢和史 (シンガーソングライター)		1	動画
		2018-09-27	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.11 大島花子 (シンガーソングライター)		1	動画
		2018-09-27	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.12 仲村颯悟 (映画監督)		1	動画
		2018-09-28	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.13 菅原文子 (俳優・菅原文太の妻)		1	動画
		2018-09-28	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.14 想田和弘 (映画作家)		1	動画
		2018-09-28	第4弾「9.30 沖縄県知事選」 vol.15 照屋勇賢（現代美術家）		1	動画
2019年	7月	2019-07-18	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.1　川上麻衣子 (俳優)	8	1	動画
		2019-07-18	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.2 辻井隆行(パタゴニア 日本支社長)		1	動画
		2019-07-18	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.3　古舘寛治 (俳優)		1	動画
		2019-07-19	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.4　うじきつよし (俳優・ミュージシャン)		1	動画
		2019-07-19	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.5　榎森耕助 (せやろがいおじさん)		1	動画
		2019-07-19	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.6　山本直樹 (漫画家)		1	動画
		2019-07-19	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.7　三浦まり (上智大学法学部教授)		1	動画
		2019-07-20	第5弾 「7.21 第25回参議院議員選挙」 vol.8　周庭 (香港衆志)		1	動画
	12月	2019-12-22	～このめちゃくちゃな国で理性を保つために～ #CTめちゃくちゃな国	1	4	ライブ配信

2020年	2月	2020-02-19	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】俳優 古舘寛治「全体主義にならないために表現の自由はある」	7	1	動画
		2020-02-20	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】映画「宮本から君へ」助成金不交付問題・前編		3	動画
		2020-02-21	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】映画「宮本から君へ」助成金不交付問題・後編		3	動画
		2020-02-23	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】映画監督 白石和彌「放っておくと国から“権利が搾取”される」		1	動画
		2020-02-24	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】映画「宮本から君へ」助成金不交付問題・第二弾！		3	動画
		2020-02-25	【 国会ウオッチング 】黒川検事長の定年延長問題おさらい編		1	動画
		2020-02-26	【　国会ウオッチング　】異例の定年延長は「法解釈を変更」して決めた？		1	動画
	3月	2020-03-01	【　国会ウオッチング　】新型コロナで安倍総理が会見 質疑応答15分で終了	10	1	動画
		2020-03-01	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】ライター・武田砂鉄「シンプルにふざけるな！と言えばいい」		1	動画
		2020-03-08	【　国会ウオッチング　】新型コロナで「緊急事態宣言」も可能に…		1	動画
		2020-03-10	【　「表現の自由」を考えるプロジェクト　】劇作家・平田オリザ「いまはレジスタンス（抵抗）の時代。大事なのは信頼と連帯」		1	動画
		2020-03-16	【　国会ウオッチング　】新型コロナ対応の特措法に憲法学者が警鐘		1	動画
		2020-03-17	「植松君は時代の子だった」NPO法人「抱樸」理事長・奥田知志さんインタビュー		1	動画
		2020-03-21	【　国会ウオッチング　】「緊急事態宣言」可能な特措法について憲法学者・石川健治氏の全編インタビュー✍		1	動画
		2020-03-24	【　国会ウオッチング　】手記読んでも、再調査しない…		1	動画
		2020-03-29	【　国会ウオッチング　】3･28安倍首相会見　自粛要請のなか具体的な支援策は？		1	動画
		2020-03-30	【判決ウオッチング】相模原殺傷事件　植松被告控訴取り下げ　NPO法人「抱樸」理事長の奥田知志さんのインタビュー（ロングバージョン）		1	動画
	4月	2020-04-09	【コロナ時代を生きるために】哲学者・西谷修氏　前編	15	1	動画
		2020-04-10	【コロナ時代を生きるために】哲学者・西谷修氏　後編		1	動画
		2020-04-13	【コロナ時代を生きるために】中島岳志・東工大教授（近代政治思想）		1	動画
		2020-04-15	【コロナ時代を生きるために】共産党・志位和夫委員長「政治の役割は国民の命と暮らしを守ること」		1	動画
		2020-04-17	【国会ウオッチング】4･16　安倍総理の「一律１０万円給付」に・・		1	動画
		2020-04-19	【コロナ時代を生きるために】亀石倫子弁護士「非常事態だからこそ受け入れられやすくなっていることが怖い」		1	動画
		2020-04-21	【コロナ時代を生きるために】フォトジャーナリスト・安田菜津紀さん		1	動画
		2020-04-23	【コロナ時代を生きるために】日の出毛織3代目・藤原康穂社長		1	動画
		2020-04-24	【コロナ時代を生きるために】一般社団法人「Colabo」代表・仁藤夢乃さん		1	動画
		2020-04-25	【コロナ時代を生きるために】一般社団法人「Colabo」代表・仁藤夢乃さんインタビュー（ロングバージョン）		1	動画
		2020-04-26	【コロナ時代を生きるために】琉球新報・島洋子さん		1	動画
		2020-04-29	【　国会ウオッチング　】4･28衆院予算委　西村大臣「強制力持つ形、検討せざるをえない」		1	動画
		2020-04-30	【　国会ウオッチング　】4･29参院予算委　蓮舫議員「終息する前に倒れたらどうするのか？」		1	動画
		2020-04-30	【コロナ時代を生きるために】ビジネスインサイダー・ジャパン　浜田敬子さん「分からないからこそ、誤りあったら修正していく」		1	動画
		2020-04-04	～With & After Covid-19の新しいコモン＆ロー #コロナ時代を生きるために		3	ライブ配信

5月	2020-05-02	【　生配信告知！】#ChooseTV 5月3日（日）20時～#コロナ時代のメディア 自由の気風を保つために	24	1	動画
	2020-05-05	【Choose TV「コロナ時代のメディア」第一部より】「官邸HPから消された記者質問」		1	動画
	2020-05-06	【ジャーナリスト・筑紫哲也氏が総理に宛てた手紙】（ChooseTV「コロナ時代のメディア」第2部より）		1	動画
	2020-05-07	【現場記者たちの声】「質問があります」（5/3生配信ChooseTV第2部より）		1	動画
	2020-05-09	【国会ウオッチング】5･8衆院内閣委　審議強行！検察官の定年延長問題		1	動画
	2020-05-12	【国会ウオッチング】5･11衆院予算委　#検察庁法改正に抗議します		1	動画
	2020-05-16	【インタビュー】ロッキード捜査の清水勇男元最高検検事に聞く。なぜ検察庁法改正案に反対の声をあげたのか？		1	動画
	2020-05-23	【　国会ウオッチング　】5･22衆院厚労委 「閣議決定、撤回する必要ない」		1	動画
	2020-05-26	【　国会ウオッチング　】5･25参院決算委　黒川氏の「軽い処分」官邸が決めた？		1	動画
	2020-05-27	【　国会ウオッチング　】5･26参院厚労委＆法務委「官邸の関与は？」		1	動画
	2020-05-03	#コロナ時代のメディア ～自由の気風を保つために～		8	ライブ配信
	2020-05-10	緊急生配信！検察庁法改正案なにが問題？ #検察庁法改正案に抗議します		6	ライブ配信
	2020-05-12	各政党 #検察庁法改正案に関する緊急記者会見　検察庁法改正案vs修正案		6	ライブ配信
	2020-05-13	なぜいま、わたしたちは声をあげるのか #わたしたちが声をあげた理由　#検察庁法改正に抗議します		14	ライブ配信
	2020-05-14	今週採決！？野党国対委員長に聞く、検察庁法改正案の強行採決にどう立ち向かう？#検察庁法改正案に関する緊急記者会見		5	ライブ配信
	2020-05-15	#検察庁法改正案の強行採決に反対します 司法関係者からもあがるこの声に、政治はどう答えるのか？		10	ライブ配信
	2020-05-16	ロッキード捜査の清水勇男元最高検検事に聞く。なぜ検察庁法改正案に反対の声をあげたのか？		1	ライブ配信
	2020-05-17	#週明けの強行採決に反対します 拡がるネットの声、揺れる検察庁法改正案。週明け各党のスタンスは？		6	ライブ配信
	2020-05-18	緊急記者会見！今国会で見送りか？ 各党幹部に聞く、#揺れる検察庁法改正案		7	ライブ配信
	2020-05-20	ネットが政治を変えるとき。なぜわたしたちは声をあげたのか？#検察庁法改正案に抗議します から #検察庁法改正案を廃案に へ		12	ライブ配信
	2020-05-21	Webシンポジウム #WeNeedCulture　文化芸術復興基金をつくろう		13	ライブ配信
	2020-05-22	ついに廃案か？ #揺れる検察庁法改正案 の行方、各党徹底討論		8	ライブ配信
	2020-05-23	#揺れる検察庁法改正案 とはなんだったのか？立憲主義と民主主義のために、いまできること。		6	ライブ配信
	2020-05-30	オンラインシンポジウム #2020年のナショナリズム		10	ライブ配信
6月	2020-06-04	【　国会ウオッチング　】6･3衆院経産委 「幽霊法人？」受託の謎	14	1	動画
	2020-06-10	【　国会ウオッチング　】6･9衆院予算委　ようやく出てきた書類は…真っ黒！		1	動画
	2020-06-13	【　国会ウオッチング　】6･12参院予算委 「癒着だと言われても仕方がない」		1	動画
	2020-06-16	【　国会ウオッチング　】6･15参院決算委 「どうしても必要な場合は当然検討」		1	動画
	2020-06-29	【東京都知事選】7月５日は投票日！俳優・タレントの松尾貴史さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-06-30	【東京都知事選】7月５日は投票日！俳優の東ちづるさんからのメッセージです。		1	動画
	2020-06-05	メディアは何のためにあるのか？いま「記者会見」のあり方を問う #メディアとは		6	ライブ配信
	2020-06-07	#誰のためのコロナ予算 なのか？？ 持続化給付金委託の謎、10兆円予備費の行方		9	ライブ配信
	2020-06-08	ネットの誹謗中傷は、表現の自由ではない。訴訟をはじめます #誹謗中傷にできることは		8	ライブ配信
	2020-06-09	支援が届いていない現場から。#みんなのためのコロナ対策 学生・留学生・困窮者・ひとり親家庭・文化芸術関係者の現状		6	ライブ配信
	2020-06-10	#国会を止めるな 立憲デモクラシーを守るために。		6	ライブ配信
	2020-06-23	沖縄慰霊の日を考える。#忘れないオキナワ		7	ライブ配信
	2020-06-27	わたしの一票、誰に入れる？都知事選候補に聞く10の質問 #都知事選候補討論会		5	ライブ配信
	2020-06-28	映画「パブリック 図書館の奇跡」から考える、いま日本の公共に求められること #声をあげるべきは今		4	ライブ配信

7月	2020-07-01	【東京都知事選】7月５日は投票日！ダースレイダー（ラッパー）さんからのメッセージ	22	1	動画
	2020-07-01	【東京都知事選】7月５日は投票日！#検察庁法改正案に抗議します 発信者の笛美さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-02	【東京都知事選】7月５日は投票日！映画監督の周防正行さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-02	【東京都知事選】7月５日は投票日！一般社団法人「Colabo」代表の仁藤夢乃さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-03	【東京都知事選】7月５日は投票日！エッセイスト・小島慶子さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-03	【　国会ウオッチング　】7·2参院厚労委 新型コロナ対応　客観的な数値基準設けず・・・		1	動画
	2020-07-03	【東京都知事選】7月５日は投票日！俳優の豊原功補さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-03	【東京都知事選】7月５日は投票日！#KuToo署名発信者の石川優実さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-04	【東京都知事選】7月５日は投票日！ミュージシャン・俳優の浜野謙太さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-04	【東京都知事選】7月５日は投票日！　シンガーソングライター・大島花子さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-04	【東京都知事選】7月５日は投票日！フォトジャーナリストの安田菜津紀さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-05	【東京都知事選】7月５日は投票日！ミュージシャンの細美武士さんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-05	【東京都知事選】7月５日は投票日！ミュージシャンで「OKAMOTO'S」のオカモトレイジさんからのメッセージです。		1	動画
	2020-07-22	【コロナ時代を生きるために】　映画監督・豊田利晃氏		1	動画
	2020-07-11	香港×台湾×沖縄の若者と考える「香港国家安全維持法」をめぐって #StandWithHongKong		5	ライブ配信
	2020-07-18	ジャーナリズムがやるべき6つのこと #ジャーナリズム提言		11	ライブ配信
	2020-07-19	#D2021 企画 Vol.1 Dialogue OPEN『D』/ ごみと資本主義を考える		7	ライブ配信
	2020-07-21	コロナ禍での災害支援はどうあるべきか。九州豪雨被害の現場から #コロナ禍の災害支援		6	ライブ配信
	2020-07-21	あんたもわしもおんなじいのち。「助けて」と言える社会を実現するために、いまできること #コロナ禍の孤立支援		4	ライブ配信
	2020-07-23	映画 #破壊の日 前夜祭 日本列島やり直し二〇二〇 しぶやスペイン坂の変		7	ライブ配信
	2020-07-29	Webシンポジウム WeNeedCulture #この国は文化芸術を救えるのか		9	ライブ配信
	2020-07-31	難民認定率0.4%の日本が今すべきこと #難民鎖国ニッポン		8	ライブ配信
8月	2020-08-04	【コロナ時代を生きるために】コメディアン・福島カツシゲ	11	1	動画
	2020-08-21	【コロナ時代を生きるために】映画監督・外山文治 「人間は傷つくために生まれてきたわけではない」		1	動画
	2020-08-02	“電気” から変える社会。 明日から私にできること #電気は選べる		10	ライブ配信
	2020-08-06	被爆者インタビュー「生まれる前から被爆者だった」。 いま後世にのこしたいメッセージ #戦後75年をどう生きる		2	ライブ配信
	2020-08-09	原爆投下から75年。決断すれば、今日から核はなくせる。いま日本がすべきこととは #戦後75年をどう生きる		7	ライブ配信
	2020-08-12	#StandWithHongKong 東京・国会前から生中継～香港の自由と民主主義のために～		3	ライブ配信
	2020-08-12	コロナ禍の、せめてもの抵抗。いま「映画」をつくるわたしたちの願いと自由 #コロナ禍の映画		3	ライブ配信
	2020-08-15	“わたし”にとっての 戦争責任とはなにか #戦後75年をどう生きる		4	ライブ配信
	2020-08-22	#D2021 企画 Dialogue vol.2　食と民主主義を考える		7	ライブ配信
	2020-08-28	7年8ヶ月、#安倍政権とはなんだったのか		16	ライブ配信
	2020-08-30	Get in touch! × Choose Life Project「生きづらさダヨ！全員集合！」		8	ライブ配信
9月	2020-09-18	【　国会ウオッチング　】9·17　桜を見る会「検証しない」	10	1	動画
	2020-09-02	石垣島の未来を誰が決めるのか？～自衛隊配備の住民投票をめぐって～ #石垣の未来		8	ライブ配信
	2020-09-06	Choose Life Projectが目指す「公共のメディア」とは ？		3	ライブ配信
	2020-09-08	政治は誰のためにあるのか？ 政権交代を目指す新党の行方 #政権交代できますか		7	ライブ配信
	2020-09-10	CLPクラウドファンディング最終日！ メディアは誰のためにあるのか？ #わたしたちのメディア		30	ライブ配信
	2020-09-20	#D2021 企画 Vol.3 Dialogue 水は誰のものか？		6	ライブ配信
	2020-09-24	私たちはまだ気候変動を止められる。地球のために今からできること #ClimateAction #世界気候アクション0925		7	ライブ配信
	2020-09-28	性風俗産業は差別されてもしょうがないのか #セックスワークにも給付金を		5	ライブ配信
	2020-09-29	あなたにとっての“居場所“とは？ 映画「ラストブラックマン・イン・サンフランシスコ」から考える #僕にはこの街がある		3	ライブ配信
	2020-09-30	原発事故の責任はどこにあるのか。国と東電を訴えた「生業訴訟」判決の行方 #福島を忘れない		5	ライブ配信

	10月	2020-10-08	【国会ウオッチング　】10･7衆院内閣委　日本学術会議への人事介入問題	18	1	動画
		2020-10-09	【　国会ウオッチング】10･8参院内閣委 「総理の任命は形式的なもの」だったはずが一		1	動画
		2020-10-11	【　国会ウオッチング】10･9菅首相グループインタビュー「名簿、見ていない」		1	動画
		2020-10-12	【　国会ウオッチング】10･12午前・加藤長官会見 「推薦名簿は参考資料」		1	動画
		2020-10-13	『i-新聞記者ドキュメント-』再上映特別シンポジウム Day1		4	動画
		2020-10-14	『i-新聞記者ドキュメント-』再上映特別シンポジウム Day2		5	動画
		2020-10-15	【コロナ時代を生きるために】10･14We Need Culture要請・会見		1	動画
		2020-10-15	【　国会ウオッチング】10･14「学者の会」会見		1	動画
		2020-10-22	Get in touch! × Choose Life Project 第2回「生きづらさだヨ！全員集合！」		8	動画
		2020-10-01	「性的同意」とは何か？ NO means NOが 当たり前になる社会を目指して。#わたしとあなたを愛すること		4	ライブ配信
		2020-10-02	#日本学術会議への人事介入に抗議する		5	ライブ配信
		2020-10-06	学問の自由とは何か？#日本学術会議への人事介入に抗議する Vol.2		3	ライブ配信
		2020-10-15	それでも私はやってない。なぜ日本の裁判制度は、冤罪から無実の人を救えないのか #裁判で真実を		6	ライブ配信
		2020-10-24	女性が自由を纏うまで。映画「パピチャ 未来へのランウェイ」から考える、“選択“できる社会とは #わたしらしく闘う		3	ライブ配信
		2020-10-25	【討論会】大阪都構想を語ろう。大阪市廃止、賛成？反対？ #大阪都構想の是非		5	ライブ配信
		2020-10-26	【生配信】日本被団協・ヒバクシャ国際署名合同記者会見		6	ライブ配信
		2020-10-30	#決断すれば今日から核はなくせる。核兵器禁止条約発効で世界はどう変わる？		7	ライブ配信
		2020-10-31	#D2021 企画 Vol.4 Dialogue たかが電気		6	ライブ配信
	11月	2020-11-06	【　国会ウオッチング】11･5参院予算委 「推薦前の調整働かず」	11	1	動画
		2020-11-07	【　国会ウオッチング】11･6日参院予算委 「学問の自由は極めて重要な権利ではありますが…」		1	動画
		2020-11-08	#原発事故に時効なし		3	動画
		2020-11-25	【国会ウオッチング　】#学術会議任命拒否問題　菅首相の発言変遷		1	動画
		2020-11-25	【国会ウオッチング　】#学術会議任命拒否問題　過去の政府答弁に対し…		1	動画
		2020-11-26	【国会ウオッチング　】11･25　参院予算委集中審議　学術会議任命拒否問題		1	動画
		2020-11-26	【判決ウオッチング　】一橋大学アウティング事件・控訴審判決		2	動画
		2020-11-28	「Get in touch」✖「プライドハウス東京」✖「Choose Life Project」第3回「生きづらさだヨ！全員集合」		8	動画
		2020-11-08	原発事故からまもなく10年、置き去りにされる住民。東電の責任とは？ #原発事故に時効なし		4	ライブ配信
		2020-11-24	学術会議の任命拒否問題。何が問われているのか？ #学術会議任命拒否問題		6	ライブ配信
		2020-11-29	#D2021 企画 Vol.5 Dialogue 「さよなら資本主義 # 1歴史篇 」		7	ライブ配信
	12月	2020-12-05	【国会ウオッチング　】12･4 菅総理会見 ”反発”「かなり大きくなると」	16	1	動画
		2020-12-06	【判決ウォッチング】「川崎市ふれあい館」虐殺・爆破予告 訴訟一審		1	動画
		2020-12-25	【国会ウオッチング　】「桜」疑惑　安倍総理(当時)答弁ダイジェスト		1	動画
		2020-12-25	【国会ウオッチング　】12･25　衆院議運委 「証人喚問しかない」		1	動画
		2020-12-26	【国会ウオッチング　】12･25参院議運委「明細書が存在しないと言ったことは一回もない」		1	動画
		2020-12-03	コロナ禍で医療現場になにが起きているのか？ #赤字の病院を救って		4	ライブ配信
		2020-12-04	これは、憲法違反である。#日本学術会議への人事介入に抗議する Vol.3		4	ライブ配信
		2020-12-10	いま、あなたにできること。「誰もが平等に生きられる社会」のために #日本にもLGBT平等法が必要です		4	ライブ配信
		2020-12-12	ジェンダーギャップの解消に向けて ーデジタル情報化社会におけるメディアの課題と未来ー　#MeDiジェンダー平等社会へ		13	ライブ配信
		2020-12-16	選択肢が増える、それだけです。選択的夫婦別姓 #いつになったら選べますか		5	ライブ配信
		2020-12-17	#まだ気候変動は止められる Vol.2　2030年までに今からできること		6	ライブ配信
		2020-12-19	学者の会オンラインシンポ ー 日本学術会議問題と学問の自由		7	ライブ配信
		2020-12-21	「それでも、敵基地攻撃能力を持つのか 」 #専守防衛はどこに		5	ライブ配信
		2020-12-22	「桜を見る会」疑惑。安倍前総理、どう責任をとる？ #安倍前総理の説明責任		8	ライブ配信
		2020-12-23	「桜を見る会」疑惑。 安倍前総理、どう責任をとる？vol.2 #安倍前総理の説明責任		5	ライブ配信
		2020-12-28	年末年始の支援情報。ためらわずにご相談ください　#生活保護は権利		3	ライブ配信

2021年	1月	2021-01-08	【「Choose大学」開講のお知らせ】	17	1	動画
		2021-01-09	「政治とは何か？」古代ギリシャの民主制から考える―「政治」を問うということ―		1	動画
		2021-01-11	【国会ウオッチング　】'20･12･25＆1･7　菅首相会見「仮定のことには答えは控えたい」		1	動画
		2021-01-14	【国会ウオッチング　】1･13菅首相会見		1	動画
		2021-01-16	「政治とは何か？」古代ギリシャの民主制から考える―古代アテネのデモクラシー―		1	動画
		2021-01-23	「政治とは何か？」古代ギリシャの民主制から考える―ソフィストとソクラテス―		1	動画
		2021-01-26	【国会ウオッチング　】1･25衆院予算委　″入院拒否に懲役″の根拠は？「把握していない」		1	動画
		2021-01-27	【国会ウオッチング　】1･26衆院予算委　「これ以上、保健所を追い詰めないで」		1	動画
		2021-01-28	【国会ウオッチング　】1･27参院予算委　「まだ″自助″を言うんですか」		1	動画
		2021-01-29	【国会ウオッチング　】1･28参院予算委　専門家の反対意見「踏みにじって法案を出した」		1	動画
		2021-01-30	政治とは何か？」古代ギリシャの民主制から考える―プラトンによる民主主義批判―		1	動画
		2021-01-10	メディアはどうあるべきか？「政治」との関係を問い直す　#2021年のメディア		5	ライブ配信
		2021-01-16	冷笑の時代に、なぜわたしたち若者は声をあげるのか #VoiceUpJapan		10	ライブ配信
		2021-01-20	WeNeedCulture　#文化芸術は生きるために必要だ		10	ライブ配信
		2021-01-21	補償は不十分、でも刑事罰？これでいいのか、政府の新型コロナ対策　#政府のコロナ対応		7	ライブ配信
		2021-01-24	決断すれば、今日から核はなくせる。 核兵器禁止条約発効で世界が変わる日 #決断すれば核はなくせる		9	ライブ配信
		2021-01-27	#D2021 企画 Vol.6 Dialogue ″クソどうでも良い仕事″ は誰のため？ ～ブルシットジョブとエッセンシャルワーク～		6	ライブ配信
	2月	2021-02-01	【国会ウオッチング　】1･27 参院予算委　”辺野古基地・自衛隊共同使用”　「計画図はあった」	16	1	動画
		2021-02-04	【国会ウオッチング　】2･3参院内閣委 厚労委合同審査会		1	動画
		2021-02-06	「政治とは何か？」代表制から考える政治―代表制民主主義―		1	動画
		2021-02-07	【国会ウオッチング　】公衆衛生が専門・橋本英樹教授「力でねじ伏せるやり方で感染拡大は抑えられない」		1	動画
		2021-02-13	「政治とは何か？」代表制から考える政治―代表制への批判―		1	動画
		2021-02-13	【国会ウオッチング　】罰則導入に公衆衛生の専門家からの警告（インタビュー7分版）		1	動画
		2021-02-17	【国会ウオッチング　】2･15衆院予算委　”赤木ファイル”の存否「コメントは差し控える」		1	動画
		2021-02-20	「政治とは何か？」代表制から考える政治―代表の概念―		1	動画
		2021-02-24	「辺野古」県民投票から2年		1	動画
		2021-02-27	【国会ウオッチング　】2･26「重大な決定をしたにもかかわらず、なぜ会見を行わないのか」#菅総理会見		1	動画
		2021-02-27	「政治とは何か？」代表制から考える政治―ポピュリズムと代表制―		1	動画
		2021-02-04	石破茂元防衛大臣に聞く。米軍との極秘合意は本当にあったのか? #辺野古を考える 沖縄タイムス 共同企画		2	ライブ配信
		2021-02-06	Don't Be Silent #わきまえない女 たち		25	ライブ配信
		2021-02-16	“赤木ファイル”の開示を求めて 提訴から1年 雅子さんに聞く #赤木さんを忘れない		2	ライブ配信
		2021-02-25	菅総理長男の総務省接待問題。行政は歪められていないのか？＃菅総理長男の接待問題		4	ライブ配信
		2021-02-27	「音楽の現場、もう限界です」 #失くすわけにはいかない		18	ライブ配信

3月	2021-03-04	「戦没者への冒涜」具志堅隆松さん 辺野古埋め立てに南部土砂　ハンスト3日目	16	1	動画
	2021-03-06	「政治とは何か？」フェミニズムと政治ーイントロ 森発言から一		1	動画
	2021-03-07	菅総理 ”土に埋もれた遺骨の色は承知していない”		1	動画
	2021-03-12	3･11「まだ鳴る鐘を鳴らせ」台湾・デジタル担当大臣　オードリー・タン氏		1	動画
	2021-03-13	「政治とは何か？」フェミニズムと政治ーネオリベラリズムとフェミニズムー		1	動画
	2021-03-20	「政治とは何か？」フェミニズムと政治ーセクシュアリティの政治ー		1	動画
	2021-03-27	「政治とは何か？」フェミニズムと政治ー99%のためのフェミニズムー		1	動画
	2021-03-01	「この入管法改正で何が変わるか？」#難民鎖国ニッポン		3	ライブ配信
	2021-03-06	「政府は戦没者の骨を基地建設に使うつもりなのか？」#沖縄の声は届いていますか		5	ライブ配信
	2021-03-11	原発事故から10年　エネルギーの未来を決めるのは誰なのか？ #あれから10年		12	ライブ配信
	2021-03-13	「Decade 現在から何が見えるか？」#D2021 今夜限定配信		19	ライブ配信
	2021-03-15	「ストーカー規制法の改正　被害実態から見える、今、必要なことは？」		5	ライブ配信
	2021-03-18	結婚の平等へ。同性婚を認めないことは「憲法14条に違反する」#札幌0317 #結婚の自由をすべての人に		6	ライブ配信
	2021-03-24	コロナ禍の災害支援はどうあるべきか？ “伝えられていない“被災地から #コロナ禍の災害支援		9	ライブ配信
	2021-03-27	#StandWithMyanmar ミャンマーで今、なにが起きているのか？		4	ライブ配信
	2021-03-28	「#自由な社会のつくり方」学者の会オンラインシンポジウム		9	ライブ配信
4月	2021-04-01	【国会ウオッチング　】#総務省接待問題	16	1	動画
	2021-04-09	「誰かの人権が守られていない社会では、実は誰も人間扱いされない」 #難民の送還ではなく保護を #難民を犯罪者にするな		1	動画
	2021-04-13	4･11「生業がなくなってしまう。文化がなくなってしまう」原発処理水の海洋放出問題　#これからの10年		1	動画
	2021-04-15	【国会ウオッチング　】3･31「やっているんですか？」#デジタル法案		1	動画
	2021-04-15	「絶望か希望か 岐路に立っている」せやろがいおじさん #難民の送還ではなく保護を #難民を犯罪者にするな		1	動画
	2021-04-16	「自分たちの力ではどうにもならない」#StandWithMyanmar		1	動画
	2021-04-18	「国に”仲間”でないとみなされれば、その人の身には”同じこと”が起こる」小島慶子 #難民の送還ではなく保護を		1	動画
	2021-04-21	「北角さんのようなジャーナリストがいなければ、私たちはミャンマーの状況を知ることができない」#北角裕樹さんの解放を求めます		1	動画
	2021-04-23	「排出量が世界で5位の日本。その責任として、よりアグレッシブな目標を立てていかなければならない」eriさん(DEPT company代表) #気候危機を止めよう		1	動画
	2021-04-25	「“いま伝えないとなかったことになる”という思いを北角さんから感じた」CLP代表・佐治洋　#北角裕樹さんの解放を求めます		1	動画
	2021-04-01	「herself」映画 #サンドラの小さな家　から考える“ホーム”とはなにか？		5	ライブ配信
	2021-04-05	What's “No means No”？ 性暴力の刑法改正に向けて、何が議論されているのか #性犯罪刑法改正		4	ライブ配信
	2021-04-11	「3.11 これからの10年を考えるために Vol.1」#これからの10年		3	ライブ配信
	2021-04-14	「誰のためのデジタル化なのか？ デジタル法案が変える個人情報保護のルール」#デジタル法案		5	ライブ配信
	2021-04-18	「NEWSROOM DIVERSITY～報道の現場に必要な多様性とは？」WOMEN IN JOURNALISM JAPAN（WJJ）主催イベント		6	ライブ配信
	2021-04-24	Don't Be Silent　#わきまえない女 たち2		4	ライブ配信

5月	2021-05-03	コロナ時代を生きるために 立憲主義とは何か #憲法記念日		2	動画
	2021-05-04	「かわいそうな人たちを守るために理解を広げよう、は当事者が求めていることではない」一般社団法人fair代表理事・松岡宗嗣さん #LGBTQがいじめ差別から守られる法律を求めます		1	動画
	2021-05-05	【国会ウオッチング　】4・20「当事者の知らないところで情報が利活用される」 #デジタル法案		1	動画
	2021-05-05	「コロナ問題で“大事なもの”を失うわけにはいかない」憲法学者・石川健治さん(5/3ChooseTVよりダイジェストVol.1) #国民投票法改正案		1	動画
	2021-05-06	【国会ウオッチング　】「速やかに」とはどういう意味か　立憲・階猛衆院議員 #難民の送還ではなく保護を		1	動画
	2021-05-06	「緊急事態条項の方が通りやすいという改憲の方法論が背後に動いている」憲法学者・石川健治さん(5/3ChooseTVよりダイジェストVol.2) #国民投票法改正案		1	動画
	2021-05-08	「公共性を問い直す-民主主義とコモンセンスの危機について-」第１回 なぜ公共性が重要なのか		1	動画
	2021-05-08	「一番大事な基本線は専制主義対立憲主義。専制権力の特徴は“問答無用”」憲法学者・石川健治さん(5/3ChooseTVよりダイジェストVol.3) #国民投票法改正案		1	動画
	2021-05-09	【国会ウオッチング　】5・7「うやむやにしたまま入管の権限と裁量を拡大すれば、同じことを繰り返す」 #入管法改正案		1	動画
	2021-05-11	「帰国したら“殺される”。難民申請が99%通らないということは“100%”ということ」俳優・ラサール石井さん　#難民の送還ではなく保護を		1	動画
	2021-05-15	「公共性を問い直す-民主主義とコモンセンスの危機について-」第2回 公共性とコモンセンスの概念分析		1	動画
	2021-05-16	「亡くなったのは私たちの姉だから、私たちもビデオ映像を見たいのです」ウィシュマさんの妹2人に今の思いを聞きました　#入管法改正案	23	2	動画
	2021-05-22	「公共性を問い直す-民主主義とコモンセンスの危機について-」第3回 カントの公共性を解釈する		1	動画
	2021-05-29	「公共性を問い直す-民主主義とコモンセンスの危機について-」第4回 公共圏の拡大浸透-アーレントを手がかりに-		1	動画
	2021-05-09	誰のための入管法改正案なのか？#入管法改正案		5	ライブ配信
	2021-05-11	緊急生配信「明日にも強行採決？#入管法改正案 の行方」#難民の送還ではなく保護を		6	ライブ配信
	2021-05-12	【緊急配信】#入管法改正案 の行方Vol.2		4	ライブ配信
	2021-05-13	隠ぺいと指摘されながら明日採決か？ #入管法改正案の行方 Vol.3		4	ライブ配信
	2021-05-14	#入管法改正案 の行方Vol.4		5	ライブ配信
	2021-05-17	なぜビデオを開示できないのか #入管法改正案の行方 Vol.5		4	ライブ配信
	2021-05-18	今国会での成立見送り #入管法改正案 の行方 Vol.6		8	ライブ配信
	2021-05-21	#ビデオ開示を求めます #入管法改正案の行方 Vol.7		3	ライブ配信
	2021-05-27	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.1 医療現場からの声 #Tokyo2020		4	ライブ配信
6月	2021-06-05	「公共性とはなにか？メディアと文化から考える」第1回 メディアと公共性		1	動画
	2021-06-06	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】「五輪の開催がコロナ対策の足かせになっている」ラグビー元日本代表・平尾剛 #Tokyo2020		1	動画
	2021-06-06	「差別を解消する法律　命を救う法律が必要」自民党前デモ参加者・りんさん #今国会でLGBT新法の制定を求めます		1	動画
	2021-06-12	公共性とはなにか？メディアと文化から考える」第2回 ソーシャル･メディアと公共性		1	動画
	2021-06-17	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】「（五輪開催で）“戦死者”がひとりでも出ないように祈るような気持ち」社会学者・上野千鶴子 #Tokyo2020		1	動画
	2021-06-18	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】6・17「感染拡大のリスクがあってもなぜ開催して大丈夫だと思うのか」菅義偉 首相 #Tokyo2020		1	動画
	2021-06-19	「公共性とはなにか？メディアと文化から考える」第3回 スポーツと公共性		1	動画
	2021-06-21	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】「一人も感染者を出さないように努力しているのに」観戦動員中止を求める保護者 #Tokyo2020	15	3	動画
	2021-06-26	「公共性とはなにか？メディアと文化から考える」第4回 サブカルチャーと公共性		1	動画
	2021-06-02	全市民が監視対象に？ #土地規制法案 とは何か		2	ライブ配信
	2021-06-07	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.2 困窮者支援の現場から #Tokyo2020		3	ライブ配信
	2021-06-10	何のための土地規制法案か #土地規制法案		5	ライブ配信
	2021-06-13	Don' Be Silent #わきまえない女 たち3		5	ライブ配信
	2021-06-14	もはや、土地を規制する法案ではない #土地規制法案		3	ライブ配信
	2021-06-23	いま沖縄で起きていること これは私たちの問題です #慰霊の日		5	ライブ配信

7月	2021-07-02	【国会ウオッチング　】6・11「新型コロナにる未曾有の事態。改憲の議論進めるのに絶好の契機」加藤勝信官房長官	18	1	動画
	2021-07-03	公共政策と公共性-官製婚活から考える-第1回 「官製婚活」って何？		1	動画
	2021-07-08	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】「完全に一般の方と離れて接触をしない」?　#Tokyo2020		1	動画
	2021-07-08	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】7・7「″バブル”はザルだった」「詳細についてまで認識していない」　#Tokyo2020		1	動画
	2021-07-09	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】7・8「いつまでこんな生活が続くのかと国民の疲労や不信感はピークに達しています」 #Tokyo2020		1	動画
	2021-07-10	公共政策と公共性-官製婚活から考える-第2回 官製婚活と公共性		1	動画
	2021-07-11	「ビデオ開示を求めるのは真実を知りたいから」名古屋入管で亡くなったウィシュマさんの妹・ワヨミさん #ウィシュマさんのビデオを開示してください		1	動画
	2021-07-15	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】7・15「すべて”バブル”で包めるのかというと無理」「緊急事態宣言下で”コロナと戦う五輪”だ」 #Tokyo2020		1	動画
	2021-07-17	公共政策と公共性-官製婚活から考える-第3回 ライフプラン教育と公共性		1	動画
	2021-07-22	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】7・21「バブルが機能していない。言っていることと異なっているのでは？」菅義偉首相　#Tokyo2020		1	動画
	2021-07-24	公共政策と公共性-官製婚活から考える-第4回 性をめぐる公共政策と公共性のパラドックス		1	動画
	2021-07-24	感染拡大続く新型コロナ 政府のワクチン供給なぜ足りないのか？ #ワクチン不足		3	動画
	2021-07-30	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】7・29「五輪の開催が感染者数に影響を与えていないとする論拠は？」菅義偉首相　#Tokyo2020		1	動画
	2021-07-06	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.3 “バブル”に穴は開いていないのか？ #Tokyo2020		3	ライブ配信
	2021-07-18	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.4 置き去りにされた多様性 #Tokyo2020		5	ライブ配信
	2021-07-22	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.5 なぜ私たちは反対の声をあげるのか #いまからでも五輪中止を		16	ライブ配信
	2021-07-27	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.6 メディアの役割とは何なのか？ #Tokyo2020		4	ライブ配信
	2021-07-31	学者の会・第4回オンラインシンポジウム「ハルマゲドン日本？！のオリンピック」		8	ライブ配信
8月	2021-08-03	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】8・3「オリンピックをやれる状況の国なんでしょうか」反貧困ネットワーク事務局長・瀬戸大作　#Tokyo2020	13	2	動画
	2021-08-03	シリーズ【コロナ禍の五輪開催を考える】8・3「政府は、五輪と感染拡大防止を同時にやろうとして収拾がつかなくなり、ケツをまくって逃げた」 倉持仁医師 #Tokyo2020		1	動画
	2021-08-04	「中等症ではあるけれど家にいたら危なかったかもしれないと言われた」コロナに感染した30代・男性(中等症) #入院制限 #新型コロナ		1	動画
	2021-08-05	【国会ウオッチング　】8・4「専門家には一切相談していない？」「政府が決めた」田村厚労相 #入院制限 #新型コロナ		1	動画
	2021-08-06	決断すれば、今日から核はなくせる。「原爆は人間の行為ではない。それを伝えていくのが私のつとめ」 #原爆の日		3	動画
	2021-08-08	【コロナ禍の五輪開催を考える　】「国民の生命と健康を守っていく。これが五輪開催の前提」閉会式を前に菅首相発言ダイジェスト		1	動画
	2021-08-23	【コロナ禍の五輪開催を考える】「いまこそ“最も小さき者”が声をあげてパラリンピック開催を止めたい」 女性障がい者たちとその自立を応援する者たち #Tokyo2020		4	動画
	2021-08-26	【国会ウオッチング　】8.25 尾身会長「国民にお願いしている時に、バッハ会長はなぜわざわざ来るのか」		1	動画
	2021-08-07	コロナ禍の五輪開催を考えるVol.7 入院制限で何が起きるのか？ #Tokyo2020		3	ライブ配信
	2021-08-09	今日から決断すれば、核はなくせる なぜ私たちは核兵器を禁止できないのか？ #原爆の日		5	ライブ配信
	2021-08-15	私たちは追悼の地平にたてているのか #終戦記念日		5	ライブ配信
	2021-08-17	#D2021 企画 Vol.7 Dialogue「やっぱり社会は変わらない？ 絶望しないための公開会議」		10	ライブ配信
	2021-08-21	横浜市長選から見える日本の未来 #投票2021 Vol.1		3	ライブ配信
9月	2021-09-09	「議会を召集するかしないかという部分に、体制の絶対主義・専制主義の性質が表れる」憲法学者・石川健治　#投票2021	9	1	動画
	2021-09-11	シリーズ【#911から20年】特別インタビュー Vol.1　写真家・長倉洋海		1	動画
	2021-09-24	シリーズ【#911から20年】特別インタビュー Vol.2　中東政治・酒井啓子		1	動画
	2021-09-05	#投票2021 Vol.2 こんな政権なら乗れる		3	ライブ配信
	2021-09-12	#投票2021 Vol.3 自民党政治を問う		4	ライブ配信
	2021-09-19	#投票2021 Vol.4 ファクトチェック「菅政権を振り返る」		4	ライブ配信
	2021-09-21	ウィシュマさん死亡事件 入管庁「最終報告」は何が問題か #JusticeForWishma		4	ライブ配信
	2021-09-28	映画「MINAMATA」責任とは何か？ #MINAMATA		4	ライブ配信
	2021-09-30	#投票2021 Vol.5 映画「コレクティブ-国家の嘘」から考えるデモクラシー		3	ライブ配信

	10月	2021-10-02	学問と表現の自由を守る会主催・第1回ライブ&オンライン座談会	24	5	動画
		2021-10-04	「任命拒否は違法。(法律上)できないんです」高山佳奈子(京都大学教授/学術会議会員)		1	動画
		2021-10-08	シリーズ【#911から20年】特別インタビュー Vol.3　国際政治・高橋和夫名誉教授		1	動画
		2021-10-14	【国会ウオッチング　】10.11 辻元衆院議員「これは、岸田総理の言う”民主主義の危機”にあたりますか？」		1	動画
		2021-10-14	「自民党からは事あるごとに”憲法に緊急事態条項がないからコロナ対策が上手くいかない”と言われた」10/13参院本会議・立憲民主党　森ゆうこ　副代表 #投票2021		1	動画
		2021-10-21	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.1 永井玲衣(哲学研究者) #投票2021		1	動画
		2021-10-21	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.2 岩井俊二(映画監督) #投票2021		1	動画
		2021-10-23	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.3 シオリーヌ(助産師/性教育YouTuber) #投票2021		1	動画
		2021-10-25	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.4 安藤優子(キャスター/ジャーナリスト) #投票2021		1	動画
		2021-10-26	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.5 アルテイシア(作家) #投票2021		1	動画
		2021-10-27	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.6 町田彩夏(政治アイドル) #投票2021		1	動画
		2021-10-31	『衆院選2021「選挙に行こう」プロジェクト』Vol.7 奥田知志(NPO法人「抱樸」理事長/牧師) #投票2021		1	動画
		2021-10-05	#投票2021 Vol.6 日本の選挙制度 見えないバイアス		3	ライブ配信
		2021-10-10	このままだと、ウチらの未来がやばい Climate Live を通じて考える気候危機 #ウチらの声で世界は変えられる		5	ライブ配信
		2021-10-11	緊急オンラインシンポジウム:危機に直面する報道の自由～アフガニスタン取材の問題点		10	ライブ配信
		2021-10-16	未来を選ぶための市民街宣 #未来を選ぼう新宿1016		20	ライブ配信
		2021-10-17	#投票2021 Vol.7 ファクトチェック「なぜファクトチェックは必要なのか？」		4	ライブ配信
		2021-10-19	#投票2021 Vol.8 わたしたちの争点		5	ライブ配信
		2021-10-24	#投票2021 Vol.9 決断すれば、今日から核はなくせる。リアルな「核兵器のない世界」へ向けた選択		5	ライブ配信
		2021-10-25	『安倍・菅政権与党の通信簿 -自民2017公約は守られたか-』#投票2021 Vol.10		4	ライブ配信
		2021-10-26	#投票2021Vol.11「気候危機 本気で止める気ありますか？」		4	ライブ配信
		2021-10-28	#投票2021 Vol.12 多様な価値観を認め合うための選択		4	ライブ配信
		2021-10-29	#投票2021 Vol.13「なぜ女性議員は増えなければいけないのか？」		5	ライブ配信
		2021-10-30	#投票2021 Vol.14「選挙に行こう！」プロジェクト		19	ライブ配信
	11月	2021-11-02	ジェンダー格差、労働環境、日本映画のこれからを考える	3	6	ライブ配信
		2021-11-25	わたしたちの民主主義なんだから -今こそ衆院選を振り返る #投票2021		3	ライブ配信
		2021-11-27	「ボトムアップ政治」の再生は可能か？立憲民主党 代表選候補者に問う。#政権交代できますか		6	ライブ配信
	12月	2021-12-04	沖縄近代史・琉球王国から沖縄県へ	9	1	動画
		2021-12-11	沖縄近代史・琉球王国から沖縄県へ		1	動画
		2021-12-18	沖縄近代史・琉球王国から沖縄県へ		1	動画
		2021-12-21	”領収書なしでもO.K.”文通費とは？「100万円もらったら、それっきり」		1	動画
		2021-12-22	「Dappiは、民間人でなく、完全に国政を理解した組織的な行為」		1	動画
		2021-12-25	沖縄近代史・琉球王国から沖縄県へ		1	動画
		2021-12-04	紛争地の難民の現状を桐野夏生が聞く-アフガンとレバノンで考えたこと		3	ライブ配信
		2021-12-16	自由で公正な社会のために- #2022へのメッセージ-		13	ライブ配信
		2021-12-28	生活保護は権利です。「まずは相談を！」年末年始・支援情報		3	ライブ配信

Choose Life Project 番組出演者リスト

2022.5.29時点

合計：519名

No	氏名	所属・肩書等	出演回数					
			MC	ゲスト	取材対象者	講師	協力	合計
1	津田大介	ジャーナリスト	31	3	2	－	－	36
2	安田菜津紀	Dialogue for People副代表／フォトジャーナリスト	23	7	2	－	－	32
3	永井玲衣	哲学研究者／D事務局	16	10	1	－	－	27
4	小島慶子	エッセイスト	16	5	2	－	－	23
5	町田彩夏	政治アイドル 「みんなの未来を選ぶためのチェックリスト」発起人	8	11	－	－	－	19
6	望月 衣塑子	東京新聞記者	－	18	－	－	－	18
7	みたらし加奈	臨床心理士／mimosas副代表理事	3	14	－	－	－	17
8	福島みずほ	参院議員（社民・党首）	－	15	－	－	－	15
9	亀石倫子	弁護士	3	10	1	－	－	14
10	せやろがいおじさん	芸人	1	12	1	－	－	14
11	南彰	朝日新聞	2	8	－	－	－	10
12	中野 晃一	上智大学教授（政治学）	1	9	－	－	－	10
13	石川健治	東京大学教授（憲法）	－	8	1	1	－	10
14	倉持仁	インターパーク倉持呼吸器内科 院長	－	8	1	－	－	9
15	東ちづる	俳優/「Get in touch」代表	1	3	4	－	－	8
16	田代伶奈	哲学の人／D事務局	3	5	－	－	－	8
17	足立康史	衆院議員（維新）	－	8	－	－	－	8
18	eri	DEPT代表／デザイナー／アクティビスト	1	7	1	－	－	9
19	疋田万理	メディアプロデューサー／CALL4／mimosas	3	4	－	－	－	7
20	笛美	「＃検察庁法改正案に抗議します」呼びかけ人／会社員	－	6	1	－	－	7
21	松岡宗嗣	fair代表理事	2	3	2	－	－	7
22	斎藤幸平	経済思想家	－	7	－	－	－	7
23	後藤正文	ミュージシャン／ASIAN KUNG-FU GENERATION	－	7	－	－	－	7
24	岡野 八代	同志社大学教授（フェミニズム理論／政治思想）	－	7	－	－	－	7
25	林田光弘	ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー 大学院生（BOTTOM UP DEMOCRACY　呼びかけ人	2	3	1	－	－	6
26	福山哲郎	参院議員（立民）	－	5	1	－	－	6
27	田村智子	参院議員（共産）	－	6	－	－	－	6
28	古舘寛治	俳優	－	4	2	－	－	6
29	吉田千亜	フリーライター	3	3	－	－	－	6
30	たかまつなな	時事YouTuber	－	6	－	－	－	6
31	コムアイ	アーティスト	－	6	－	－	－	6
32	藤原辰史	京都大学准教授（農業史）	－	5	－	－	－	5
33	川崎哲	ICAN国際運営委員／「ピースボート」共同代表	－	5	－	－	－	5
34	石川優実	#KuToo署名発信者／アクティビスト	－	4	1	－	－	5
35	小池晃	参院議員（共産）	－	5	－	－	－	5
36	三浦まり	上智大学教授（政治学）	1	3	1	－	－	5
37	原口一博	衆院議員（立民）	－	5	－	－	－	5
38	元山仁士郎	一橋大学博士後期課程・「辺野古」県民投票元代表	－	4	1	－	－	5
39	具志堅隆松	沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」	－	3	2	－	－	5
40	荻上チキ	評論家／ラジオパーソナリティ	5	－	－	－	－	5
41	奥田知志	牧師／「抱樸」理事長	－	2	3	－	－	5
42	伊藤詩織	ジャーナリスト	－	5	－	－	－	5
43	スガナミユウ	LIVE HAUS／SaveOurSpace 「みんなの未来を選ぶためのチェックリスト」発起人	－	5	－	－	－	5
44	林 香里	東京大学副学長・情報学環教授	－	4	－	－	－	4
45	浜田敬子	ジャーナリスト／元アエラ編集長 前Business Insider Japan統括編集長	2	1	1	－	－	4
46	馬奈木厳太郎	弁護士（「生業訴訟」弁護団事務局長）	－	4	－	－	－	4
47	内田樹	思想家／武道家	－	3	1	－	－	4
48	藤野保史	衆院議員（共産）　※当時	－	4	－	－	－	4
49	中島 岳志	東京工業大学教授（政治思想）	－	3	1	－	－	4

50	大沢 真理	東京大学名誉教授（経済学）	－	4	－	－	－	4
51	西谷 修	東京外国語大学名誉教授（仏思想・哲学）	－	3	1	－	－	4
52	仁藤夢乃	Colabo代表	－	1	3	－	－	4
53	上西充子	法政大学教授／「国会パブリックビューイング」代表	－	4	－	－	－	4
54	篠田ミル	ミュージシャン／D事務局／yahyel	－	4	－	－	－	4
55	枝野幸男	衆院議員（立民）	－	4	－	－	－	4
56	志位和夫	衆院議員（共産・委員長）	－	3	1	－	－	4
57	佐藤 学	東京大学名誉教授／学習院大学特任教授	1	4	－	－	－	5
58	佐久間裕美子	文筆家	－	4	－	－	－	4
59	広渡 清吾	東京大学名誉教授	－	4	－	－	－	4
60	古田大輔	ジャーナリスト／メディアコラボ代表	－	4	－	－	－	4
61	宮良麻奈美	石垣市住民投票を求める会	－	4	－	－	－	4
62	階猛	衆院議員（立民）	－	4	－	－	－	4
63	稲葉剛	つくろい東京ファンド代表理事	－	4	－	－	－	4
64	伊藤惇夫	政治アナリスト	－	4	－	－	－	4
65	アルテイシア	作家	－	3	1	－	－	4
66	濱住治郎	日本被団協事務局次長／広島被爆（胎内被爆者）	－	3	－	－	－	3
67	和田征子	日本被団協事務局次長／長崎被爆	－	3	－	－	－	3
68	立岩陽一郎	元NHK記者／「InFact」編集長	－	3	－	－	－	3
69	木田修作	テレビユー福島・記者	－	3	－	－	－	3
70	木村草太	東京都立大学教授（憲法）	－	3	－	－	－	3
71	木戸季市	日本被団協事務局長／長崎被爆	－	3	－	－	－	3
72	北原みのり	作家／フラワーデモ呼びかけ人	－	3	－	－	－	3
73	平尾剛	元ラグビー・日本代表選手	－	2	1	－	－	3
74	樋口真弓	手話通訳士	－	－	－	－	3	3
75	飯田哲也	環境エネルギー政策研究所所長	－	3	－	－	－	3
76	白石和彌	映画監督	－	2	1	－	－	3
77	能條桃子	NO YOUTH NO JAPAN 代表理事	－	3	－	－	－	3
78	島洋子	琉球新報前報道本部長	－	2	1	－	－	3
79	田中東子	大妻女子大学教授（メディア文化）	－	2	－	1	－	3
80	辻愛沙子	arca CEO／「GO VOTE JAPAN」発起人	－	3	－	－	－	3
81	大島花子	歌手／シンガーソングライター	－	1	2	－	－	3
82	西村カリン	LIBERATION リベラシオン紙 公共ラジオグループRADIO FRANCE 特派員	－	2	－	－	1	3
83	西原孝至	映画監督／WeNeedCulture呼びかけ人	1	2	－	－	－	3
84	森本行雄	手話通訳士	－	－	－	－	3	3
85	小林美穂子	つくろい東京ファンド	－	3	－	－	－	3
86	小野りりあん	モデル／環境アクティビスト	－	3	－	－	－	3
87	周防正行	映画監督	－	1	2	－	－	3
88	児玉晃一	弁護士	－	3	－	－	－	3
89	指宿昭一	弁護士	－	3	－	－	－	3
90	四宮隆史	弁護士	－	－	3	－	－	3
91	山崎雅弘	戦史紛争史研究家	－	3	－	－	－	3
92	高橋悠太	「KNOW NUKES TOKYO」共同代表 「カクワカ広島」共同代表	1	2	－	－	－	3
93	高井崇志	衆院議員（れいわ）	－	3	－	－	－	3
94	後藤祐一	衆院議員（立民）	－	3	－	－	－	3
95	玉木雄一郎	衆院議員（国民）	－	3	－	－	－	3
96	郷原信郎	弁護士／元検察官	－	3	－	－	－	3
97	岩井俊二	映画監督	－	2	1	－	－	3
98	河村光庸	映画プロデューサー		－	3	－	－	3
99	加藤梅造	ロフトプロジェクト社長	－	3	－	－	－	3

100	伊藤淳	立川相互病院・感染管理看護師	－	3	－	－	－	3
101	阿部岳	沖縄タイムス編集委員	1	2	－	－	－	3
102	Nozomi Nobody	シンガー・ソングライター／文筆家	－	3	－	－	－	3
103	Gotch	D2021／ミュージシャン／アーティスト	－	3	－	－	－	3
104	礒元メリッサ瑠奈	Voice Up Japan 明治学院大学支部 副代表	－	2	－	－	－	2
105	豊田利晃	映画監督	－	1	1	－	－	2
106	豊原功補	俳優	－	1	1	－	－	2
107	平田オリザ	劇作家／四国学院大学教授／日本学術会議会員	－	1	1	－	－	2
108	中村涼夏	Fridays For Future Kagoshima	－	2	－	－	－	2
109	福島明夫	日本劇団協議会	－	2	－	－	－	2
110	福田和子	スウェーデン大学／#なんでないのプロジェクト代表	－	2	－	－	－	2
111	福井周	Voice Up Japan アドボカシーリーダー	－	2	－	－	－	2
112	浜野謙太	ミュージシャン／俳優	－	1	1	－	－	2
113	中村涼香	KNOW NUKES TOKYO共同代表	1	1	－	－		2
114	伯川星矢	フリーライター	－	2	－	－	－	2
115	渡辺由美子	キッズドア理事長	－	2	－	－	－	2
116	渡辺てるこ	練馬区議（立民）	－	2	－	－	－	2
117	田中美穂	「カクワカ広島」共同代表	－	2	－	－	－	2
118	中里虎鉄	写真家／編集者	－	2	－	－	－	2
119	太田啓子	弁護士	－	2	－	－	－	2
120	想田和弘	映画作家	－	－	2	－	－	2
121	泉健太	衆院議員（立民・代表）	－	2	－	－	－	2
122	千種朋恵	「START」大学支部代表	－	2	－	－	－	2
123	石飛徳樹	朝日新聞・記者・編集委員	－	－	2	－	－	2
124	石破茂	衆院議員（自民）	－	2	－	－	－	2
125	青野慶久	サイボウズ代表取締役	－	2	－	－	－	2
126	清水勇男	元最高検検事	－	1	1	－	－	2
127	瀬戸山美咲	劇作家／演出家	－	2	－	－	－	2
128	上野千鶴子	東京大学名誉教授（社会学）	－	1	1	－	－	2
129	上島安裕	ピースボート災害支援センター理事兼事務局長	－	2	－	－	－	2
130	松尾貴史	俳優	－	－	2	－	－	2
131	松中権	プライドハウス東京 代表	－	1	1	－	－	2
132	松原文枝	テレビ朝日・元「報道ステーション」プロデューサー	－	2	－	－	－	2
133	小林えみ	編集者	－	2	－	－	－	2
134	小川淳也	衆院議員（立民）	－	2	－	－	－	2
135	酒井 啓子	千葉大学教授（中東政治）	－	1	1	－	－	2
136	篠田真央子	編集者/D事務局	－	2	－	－	－	2
137	時枝穂	トランスジェンダー・アクティビスト Rainbow Tokyo 北区 代表	－	2	－	－	－	2
138	児玉三智子	日本被団協事務局次長／広島被爆	－	2	－	－	－	2
139	山添 拓	参院議員（共産）	－	2	－	－	－	2
140	山口元一	弁護士	－	2	－	－	－	2
141	三木由希子	情報公開クリアリングハウス理事長	－	2	－	－	－	2
142	坂本龍一	アーティスト	－	2	－	－	－	2
143	今井雅人	衆院議員（立民）	－	2	－	－	－	2
144	黒部睦	FridaysForFutureTokyo／大学生	－	2	－	－	－	2
145	黒岩宇洋	衆院議員（立民）	－	2	－	－	－	2
146	穀田恵二	衆院議員（共産）	－	2	－	－	－	2
147	高山佳奈子	京都大学教授（刑法）	－	2	－	－	－	2
148	五十嵐ゆり	LGBT法連合会理事／Rainbow Soup代表	－	2	－	－	－	2
149	古賀茂明	元経産官僚／古賀茂明政策ラボ代表	－	2	－	－	－	2
150	串田誠一	衆院議員（維新） ※当時	－	2	－	－	－	2
151	金子勝	立教大学大学院特任教授	－	2	－	－	－	2

152	橋本英樹	東京大学大学院（公衆衛生）	－	－	2	－	－	**2**
153	吉良よし子	参院議員（共産）	－	2	－	－	－	**2**
154	角張渉	カクバリズム代表	－	2	－	－	－	**2**
155	塩村あやか	参院議員（立民）	－	2	－	－	－	**2**
156	井田奈穂	「選択的夫婦別姓・全国陳情アクション」事務局長	－	2	－	－	－	**2**
157	井谷聡子	関西大学准教授（スポーツ・ジェンダー）	－	2	－	－	－	**2**
158	伊奈東子	BOND学生メンバー	－	2	－	－	－	**2**
159	伊是名夏子	コラムニスト	－	2	－	－	－	**2**
160	安住淳	衆院議員（立民）	－	2	－	－	－	**2**
161	ラブリ	モデル		－	2	－	－	**2**
162	ラサール石井	俳優／タレント／演出家	－	2	－	－	－	**2**
163	オカモトレイジ	ミュージシャン「OKAMOTO'S」	－	1	1	－	－	**2**
164	オードリー・タン	台湾 デジタル担当大臣	－	1	1	－	－	**2**
165	アリ氏	クルド人／難民申請者	－	2	－	－	－	**2**
166	髙田延彦	タレント／元総合格闘家	－	－	1	－	－	**1**
167	薬師実芳	ReBit 代表	－	1	－	－	－	**1**
168	櫻井彩乃	「＃男女共同参画ってなんですか」代表	－	1	－	－	－	**1**
169	尹李英愛	会社員	－	1	－	－	－	**1**
170	蓮舫	参院議員（立民）	－	1	－	－	－	**1**
171	鈴木享	北海道グリーンファンド	－	1	－	－	－	**1**
172	林美子	ジャーナリスト	－	1	－	－	－	**1**
173	李美淑	立教大学GLAP運営センター助教	－	1	－	－	－	**1**
174	要 友紀子	SWASH代表	－	1	－	－	－	**1**
175	与那城千恵美	チーム緑ヶ丘1207	－	1	－	－	－	**1**
176	柳瀬二郎（betcover!!）	ミュージシャン	－	1	－	－	－	**1**
177	矢野彩子	愛知県医労連「＃看護師の五輪派遣は困ります」呼びかけ	－	1	－	－	－	**1**
178	野澤満理子	一般人）保育園園長	－	－	1	－	－	**1**
179	木村耕精	一般人）マグロ卸売業	－	－	1	－	－	**1**
180	木村義彦	おらってにいがた市民エネルギー協議会	－	1	－	－	－	**1**
181	木下洋一	元入管職員	－	1	－	－	－	**1**
182	網谷壮介	獨協大学（政治思想史）	－	－	－	1	－	**1**
183	綿井健陽	ジャーナリスト	－	1	－	－	－	**1**
184	明城徹也	「JVOAD」事務局長	－	1	－	－	－	**1**
185	麿赤兒	舞踏家・俳優	－	－	1	－	－	**1**
186	本多愼一郎	本多劇場グループ総支配人	－	1	－	－	－	**1**
187	本間鮎美	START学生メンバー	－	1	－	－	－	**1**
188	牧野圭太	カラス代表	－	1	－	－	－	**1**
189	北條誠人	ユーロスペース支配人	－	1	－	－	－	**1**
190	北原まどか	森ノオト理事長	－	1	－	－	－	**1**
191	北角裕樹	ジャーナリスト	－	－	1	－	－	**1**
192	豊岡和美	徳島地域エネルギー	－	1	－	－	－	**1**
193	保坂展人	東京都・世田谷区長	－	1	－	－	－	**1**
194	米倉洋子	弁護士	－	1	－	－	－	**1**
195	平野浩子	学校観戦に反対の母親	－	1	－	－	－	**1**
196	平田仁子	気候ネットワーク理事	－	1	－	－	－	**1**
197	平山善成	クリエイティブマンプロダクション	－	1	－	－	－	**1**
198	平岡路子	弁護士	－	1	－	－	－	**1**
199	平井照枝	しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道 代表	－	1	－	－	－	**1**
200	福島富子	「神奈川県原爆被爆者の会」副会長／葉山支部会長		1	－	－	－	**1**
201	福島カツシゲ	コメディアン	－	－	1	－	－	**1**

202	福田耕	「残そう、大阪」メンバー	－	1	－	－	－	1
203	武田真一郎	成蹊大学教授（行政法）	－	1	－	－	－	1
204	武田砂鉄	ライター	－	－	1	－	－	1
205	武井俊輔	衆院議員（自民）	－	1	－	－	－	1
206	浮島とも子	衆院議員（公明）	－	1	－	－	－	1
207	布施祐仁	ジャーナリスト	1	－	－	－	－	1
208	蛭田ヤマダ理紗	Voice Up Japan 早稲田大学支部 共同代表	－	1	－	－	－	1
209	樋口英明	元福井地裁裁判長	－	1	－	－	－	1
210	畠山理仁	フリージャーナリスト	－	1	－	－	－	1
211	白川優子	国境なき医師団・看護師／日本ペンクラブ女性作家委員会	－	1	－	－	－	1
212	白河桃子	昭和女子大学客員教授／相模女子大学大学院特任教授	－	1	－	－	－	1
213	伯野寧	Voice Up Japan マーケティングチーム／高校生	－	1	－	－	－	1
214	馬場ゆきの	元未来のための公共	－	1	－	－	－	1
215	入江のぶこ	東京都議会議員（都民ファ）	－	1	－	－	－	1
216	日比野敏陽	京都新聞・東京編集部長	－	1	－	－	－	1
217	内澤旬子	文筆家／イラストレーター	－	1	－	－	－	1
218	徳田悠希	「KNOW NUKES TOKYO」	－	1	－	－	－	1
219	匿名希望	一般人）団体職員	－	－	1	－	－	1
220	匿名希望	一般人）小学5年・3年の母親	－	－	1	－	－	1
221	匿名希望	一般人）Sさん（生活保護申請者）	－	－	1	－	－	1
222	匿名希望	一般人）コロナ感染者（男性・30代）	－	－	1	－	－	1
223	藤田多恵	TBSテレビ（人事労政局担当局長）	－	1	－	－	－	1
224	藤田政博	関西大学教授（社会心理学）	－	1	－	－	－	1
225	藤川まゆみ	上田市民エネルギー	－	1	－	－	－	1
226	藤原康穂	日の出毛織3代目　社長	－	－	1	－	－	1
227	藤原久美子	自立生活センター神戸「Beすけっと」事務局長	－	1	－	－	－	1
228	藤原しおり	タレント	－	1	－	－	－	1
229	湯澤直美	立教大学教授	－	1	－	－	－	1
230	島岡まな	大阪大学大学院（刑法）	－	1	－	－	－	1
231	田中熙巳	ヒバクシャ国際署名連絡会 代表／長崎被爆	－	1	－	－	－	1
232	田中優子	法政大学元総長	－	1	－	－	－	1
233	田井肇	大分シネマ5代表	－	1	－	－	－	1
234	鶴田七瀬	ソウレッジ代表	－	1	－	－	－	1
235	辻元清美	衆院議員（立民）　※当時	－	1	－	－	－	1
236	辻井隆行	パタゴニア 日本支社長	－	－	1	－	－	1
237	長谷部恭男	早稲田大学教授（憲法）	－	1	－	－	－	1
238	長倉洋海	写真家	－	－	1	－	－	1
239	長位鈴子	沖縄県自立生活センター「イルカ」代表	－	1	－	－	－	1
240	町山智浩	映画評論家	－	1	－	－	－	1
241	朝倉尚	一般人）飲食業	－	－	1	－	－	1
242	仲村颯悟	映画監督	－	－	1	－	－	1
243	中満泉	国連事務次長／軍縮担当上級代表	－	1	－	－	－	1
244	中島孝	「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟 原告団長	－	1	－	－	－	1
245	中谷元	衆院議員（自民）	－	1	－	－	－	1
246	中村桂子	長崎大学・核兵器廃絶研究センター（RECNA）	－	1	－	－	－	1
247	中川えりな	一般人）大学生	－	－	1	－	－	1
248	中西謙司	山中製菓株式会社　代表取締役	－	1	－	－	－	1
249	中西嘉宏	京都大学准教授（政治学）	－	1	－	－	－	1
250	中込智子	音楽ライター	－	1	－	－	－	1
251	竹内昌義	建築家	－	1	－	－	－	1

252	池澤夏樹	作家	－	－	1	－	－	1
253	丹正功一	岡山 YEBISU YA PRO	－	1	－	－	－	1
254	瀧口徹	弁護士	－	1	－	－	－	1
255	大林宣彦	映画監督	－	－	1	－	－	1
256	大門小百合	ジャーナリスト／元ジャパンタイムズ執行役員・編集局長	－	1	－	－	－	1
257	大島花子	シンガーソングライター	－	－	1	－	－	1
258	大城章乃	辺野古県民投票の会	－	1	－	－	－	1
259	大工哲弘	島唄者・八重山民謡の第一人者	－	－	1	－	－	1
260	大串博志	衆院議員（立民）	－	1	－	－	－	1
261	大橋毅	弁護士	－	1	－	－	－	1
262	大塩さやか	ピースボート災害支援センター	－	1	－	－	－	1
263	村本大輔	ウーマンラッシュアワー	－	1	－	－	－	1
264	村上千里	環境政策対話研究所 理事	－	1	－	－	－	1
265	速永同志子	人吉市社会福祉協議会／事務局次長	－	1	－	－	－	1
266	曽我部恵一	音楽家	－	1	－	－	－	1
267	前田勇樹	琉球大学附属図書館	－	－	－	1	－	1
268	前原土武	「結」代表	－	1	－	－	－	1
269	浅倉むつ子	早稲田大学名誉教授／日本学術会議元会員	－	1	－	－	－	1
270	浅沼優子	音楽ライター／ブッキングエージェント	－	1	－	－	－	1
271	川内博史	衆院議員（立民） ※当時	－	1	－	－	－	1
272	川村里紗	Voice Up Japan 明治大学支部	－	1	－	－	－	1
273	川上麻衣子	俳優	－	－	1	－	－	1
274	川上 翔	ビッグイシュー基金大阪事務所	－	1	－	－	－	1
275	切腹ピストルズ	ミュージシャン	－	1	－	－	－	1
276	窪塚洋介	俳優	－	1	－	－	－	1
277	赤木雅子	元財務省近畿財務局・職員／赤木俊夫さんの妻	－	1	－	－	－	1
278	石田英敬	東京大学名誉教授	－	1	－	－	－	1
279	石川大我	参院議員（立民）	－	1	－	－	－	1
280	石川えり	難民支援協会代表理事	－	1	－	－	－	1
281	石垣綾音	まちづくりファシリテーター	－	1	－	－	－	1
282	石垣のりこ	参院議員（立民）	－	1	－	－	－	1
283	石井千晴	助監督	－	1	－	－	－	1
284	斉藤正美	富山大学（社会学）	－	－	－	1	－	1
285	青柳雄大	できること会議共同代表	－	1	－	－	－	1
286	青木美希	日本ペンクラブ・言論表現委員会	1	－	－	－	－	1
287	西片明人	SPC peakperformance代表／東北ライブハウス大作戦本部長	－	1	－	－	－	1
288	西尾慧吾	イェール大学	－	1	－	－	－	1
289	西田亮介	東京工業大学准教授（社会学）	－	1	－	－	－	1
290	西村智奈美	衆院議員（立民・幹事長）	－	1	－	－	－	1
291	西村俊哉	Voice Up Japan 理事	－	1	－	－	－	1
292	西川美和	映画監督	－	1	－	－	－	1
293	西山美香	湖東病院事件で無罪	－	1	－	－	－	1
294	西原平	一般人）会社員	－	－	1	－	－	1
295	清田隆之	文筆業／「桃山商事」代表	－	1	－	－	－	1
296	清水晶子	東京大学教授（フェミニズム・クィア理論）	－	1	－	－	－	1
297	清水暁	「ヘリパッドいらない」住民の会	－	1	－	－	－	1
298	是枝裕和	映画監督	－	－	1	－	－	1
299	瀬戸大作	反貧困ネットワーク事務局長	－	－	1	－	－	1
300	菅野貴拓	一般人）旅館業経営者	－	－	1	－	－	1
301	菅野英信	一般人）旅館業経営者	－	－	1	－	－	1

302	菅原文子	俳優・菅原文太の妻	−	−	1	−	−	1
303	杉尾秀哉	参院議員（立民）	−	1	−	−	−	1
304	杉原浩司	武器取引反対ネットワーク NAJAT 代表	−	1	−	−	−	1
305	水野和夫	法政大学教授（経済学）	−	1	−	−	−	1
306	水谷八重子	俳優／日本俳優連合副理事長	−	1	−	−	−	1
307	水戸川真由美	日本ダウン症協会 理事	−	1	−	−	−	1
308	須田布美子	札幌訴訟弁護団	−	1	−	−	−	1
309	諏訪敦彦	映画監督	−	1	−	−	−	1
310	辛淑玉	「のりこえネット」共同代表	−	1	−	−	−	1
311	神谷悠一	LGBT法連合会・事務局長	−	−	1	−	−	1
312	森松明希子	原発賠償関西訴訟 原告団代表	−	1	−	−	−	1
313	森崎めぐみ	俳優・日本俳優連合理事 国際部長	−	1	−	−	−	1
314	新田義貴	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
315	乗松聡子	ピース・フィロソフィー・センター代表	−	1	−	−	−	1
316	上杉崇子	Marriage For All Japan理事	−	1	−	−	−	1
317	照屋勇賢	現代美術家	−	−	1	−	−	1
318	松宮孝明	立命館大学（刑法）	−	1	−	−	−	1
319	松下玲子	東京都・武蔵野市長	−	1	−	−	−	1
320	松岡亮太	「くまもと友救の会」代表	−	1	−	−	−	1
321	松永鎌矢	「リエラ」代表理事	−	1	−	−	−	1
322	松井保憲	「START」顧問	−	1	−	−	−	1
323	松田 龍平	俳優	−	1	−	−	−	1
324	小林可奈	中国新聞記者	−	1	−	−	−	1
325	小林りょう子	ハートをつなごう学校 副代表	−	1	−	−	−	1
326	小野芳征	一般人）飲食業経営者	−	−	1	−	−	1
327	小野泰輔	衆院議員（維新）	−	1	−	−	−	1
328	小波津正光	お笑い芸人	−	−	1	−	−	1
329	小池百合子	東京都知事	−	1	−	−	−	1
330	小池真実	別姓家庭で育った子ども当事者	−	1	−	−	−	1
331	小谷英生	群馬大学准教授（哲学）	−	−	−	1	−	1
332	小早川明子	ヒューマニティ理事長	−	1	−	−	−	1
333	小泉今日子	俳優	−	1	−	−	−	1
334	小川たまか	ライター	−	1	−	−	−	1
335	小西禎一	元大阪府副知事	−	1	−	−	−	1
336	小西一禎	ジャーナリスト／元共同通信政治部記者	−	1	−	−	−	1
337	小森 陽一	東京大学名誉教授（国文学）	−	1	−	−	−	1
338	小松俊	台湾清華大学・大学院生	−	1	−	−	−	1
339	小出愛菜	Climate Live Japan／we Re:Act	−	1	−	−	−	1
340	小熊 英二	慶応義塾大学教授（歴史社会学）	−	1	−	−	−	1
341	舟越美夏	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
342	秋本真利	衆院議員（自民）	−	1	−	−	−	1
343	周庭	香港衆志	−	−	1	−	−	1
344	酒向萌実	株式会社GoodMorning 代表	−	1	−	−	−	1
345	酒井隆史	大阪府立大学教授（社会思想）	−	1	−	−	−	1
346	酒井功雄	Fridays For Future Tokyo	−	1	−	−	−	1
347	室生暁	SaveMedSaveLives医療を守ろうプロジェクト代表	−	1	−	−	−	1
348	室橋祐貴	「目指せ！投票率75%プロジェクト」実行委員	−	1	−	−	−	1
349	室井佑月	作家	−	1	−	−	−	1
350	治部れんげ	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
351	寺町東子	弁護士	−	1	−	−	−	1

352	寺原真希子	弁護士／同性婚・夫婦別姓訴訟	－	1	－	－	－	1
353	児玉龍彦	東京大学先端科学技術研究センター名誉教授	－	1	－	－	－	1
354	児玉実央	Voice Up Japan ICU支部代表	－	1	－	－	－	1
355	詩森ろば	劇作家・演出家	－	1	－	－	－	1
356	指宿信	成城大学教授（刑事訴訟法）	－	1	－	－	－	1
357	志葉玲	ジャーナリスト	－	1	－	－	－	1
358	渋川 清彦	俳優	－	1	－	－	－	1
359	市野川容孝	東京大学教授（社会学）	－	1	－	－	－	1
360	市川寛	弁護士／元検察官	－	1	－	－	－	1
361	市橋拓	ACTION OSAKA PROJECT代表	－	1	－	－	－	1
362	山脇歩子	PBV/コミュニティ支援	－	1	－	－	－	1
363	山本和奈	Voice Up Japan 代表	－	1	－	－	－	1
364	山本直樹	漫画家	－	－	1	－	－	1
365	山本智恵子	全国訪問ボランティアナースの会「キャンナス熊本」代表	－	1	－	－	－	1
366	山本大貴	Fridays For Future Tokyo／気候活動家	－	1	－	－	－	1
367	山本太郎	れいわ新撰組代表	－	1	－	－	－	1
368	山本潤	Spring代表理事	－	1	－	－	－	1
369	山本恵子	NHK名古屋拠点放送局 報道部 副部長	－	1	－	－	－	1
370	山本雅昭	一般人）会社員（BOTTOM LIP DEMOCRACY　呼びかけ人）	－	－	1	－	－	1
371	山尾志桜里	衆院議員　※当時	－	1	－	－	－	1
372	山田佳緒里	LIQUIDROOM	－	1	－	－	－	1
373	山崎誠	衆院議員（立民）	－	1	－	－	－	1
374	山崎紀子	シネ・ヌーヴォ支配人	－	1	－	－	－	1
375	山口二郎	法政大学教授（政治学）	－	1	－	－	－	1
376	山岸鞠香	大学院生／「一律学費半額を求めるアクション」代表	－	1	－	－	－	1
377	山下チサト	Voice Up Japan ICU支部代表	－	1	－	－	－	1
378	山井和則	衆院議員（立民）	－	1	－	－	－	1
379	三上智恵	映画監督／ジャーナリスト	－	1	－	－	－	1
380	鮫島浩	元朝日新聞記者	－	1	－	－	－	1
381	笹倉香奈	甲南大学教授（刑事訴訟法）	－	1	－	－	－	1
382	細美武士	ミュージシャン	－	－	1	－	－	1
383	佐藤正久	参院議員（自民）	－	－	1	－	－	1
384	佐藤慧	Dialogue for People代表	－	1	－	－	－	1
385	佐藤ひらり	全盲シンガーソングライター	－	1	－	－	－	1
386	佐々木寛	新潟国際情報大学教授	－	1	－	－	－	1
387	佐々木 大志郎	つくろい東京ファンド	－	1	－	－	－	1
388	今賀はる	セックスワーカー	－	1	－	－	－	1
389	今井紀明	「Ｄ×Ｐ」理事長	－	1	－	－	－	1
390	国見亮佑&たかし	札幌訴訟の原告	－	1	－	－	－	1
391	高田昌幸	東京都市大学教授	－	1	－	－	－	1
392	高崎亮	SMASH	－	1	－	－	－	1
393	高橋和夫	放送大学名誉教授（国際政治・中東研究）	－	－	1	－	－	1
394	高橋哲哉	東京大学名誉教授（仏思想・哲学）	－	1	－	－	－	1
395	高橋純子	朝日新聞・編集委員	－	1	－	－	－	1
396	高橋済	弁護士／「入管を変える！弁護士ネットワーク」事務局長	－	1	－	－	－	1
397	高橋亜美	アフターケア相談所「ゆずりは」所長	－	1	－	－	－	1
398	高羽彩	脚本家／演出家／役者	－	1	－	－	－	1
399	香山 リカ	立教大学教授	－	1	－	－	－	1
400	荒木啓子	ぴあフィルムフェスティバル ディレクター	－	1	－	－	－	1

401	荒尾日南子	国際環境NGO 350 Japan	–	1	–	–	–	1
402	江田 初穂	ホームレス支援全国ネットワーク／抱樸	–	1	–	–	–	1
403	江川紹子	フリージャーナリスト	–	1	–	–	–	1
404	江守正多	国立環境研究所	–	1	–	–	–	1
405	江間有沙	東京大学未来ビジョン研究センター特任講師	–	1	–	–	–	1
406	広田一	衆院議員（立民） ※当時	–	1	–	–	–	1
407	光嶋裕介	建築家	–	1	–	–	–	1
408	五百旗頭幸男	映画監督／石川テレビ記者	–	1	–	–	–	1
409	五十嵐 LINDA 渉	アートディレクター・TWINPLANET	–	1	–	–	–	1
410	袴田ひで子	袴田巌さん姉	–	1	–	–	–	1
411	古謝美佐子	沖縄民謡歌手	–	–	1	–	–	1
412	古賀大地	Voice Up Japan青山学院大学支部 運営メンバー	–	1	–	–	–	1
413	原田浩司	共同通信編集委員	–	1	–	–	–	1
414	駒込武	京都大学教授（教育学）	–	1	–	–	–	1
415	金本麻理子	映像作家	–	1	–	–	–	1
416	金平茂紀	日本ペンクラブ・言論表現委員会	1	–	–	–	–	1
417	金城龍太郎	石垣市住民投票を求める会	–	1	–	–	–	1
418	桐野夏生	作家／日本ペンクラブ会長	1	–	–	–	–	1
419	桐山純平	東京新聞記者	–	1	–	–	–	1
420	玉本英子	ジャーナリスト	–	1	–	–	–	1
421	牛込陽介	デザイナー／Takram London	–	1	–	–	–	1
422	宮木快	紡／Green Tea	–	1	–	–	–	1
423	宮本徹	衆院議員（共産）	–	1	–	–	–	1
424	宮本亜門	演出家	–	–	1	–	–	1
425	宮沢和史	シンガーソングライター（元THE BOOMのボーカリスト）	–	–	1	–	–	1
426	吉田まゆ	ロイター通信キャスター特派員・シニアプロデューサー	–	1	–	–	–	1
427	吉川元	衆院議員（立民）	–	1	–	–	–	1
428	吉江俊	都市計画研究者	–	1	–	–	–	1
429	菊地夏野	名古屋市立大学（社会学）	–	–	–	1	–	1
430	岩野さおり	FridaysForFutureTokyo	–	1	–	–	–	1
431	岩井奉信	日本大学名誉教授（政治学）	–	–	1	–	–	1
432	岸本聡子	トランスナショナル研究所	–	1	–	–	–	1
433	関根光才	「VOICE PROJE」発起人／映像監督	–	1	–	–	–	1
434	管野貴拓	一般人）ホテルみなとや専務	–	–	1	–	–	1
435	鴨志田祐美	大崎事件弁護団	–	1	–	–	–	1
436	鎌仲ひとみ	ドキュメンタリー映画監督	–	1	–	–	–	1
437	角替清美	袴田事件弁護団	–	1	–	–	–	1
438	垣貫紀彦	ピースボート災害支援センター	–	1	–	–	–	1
439	外山文治	映画監督	–	–	1	–	–	1
440	花岡真琴	抱樸スタッフ	–	1	–	–	–	1
441	河崎健一郎	弁護士	–	–	1	–	–	1
442	河本清順	シネマ尾道支配人	–	1	–	–	–	1
443	歌川達人	Japanese Film Project	–	1	–	–	–	1
444	嘉田由紀子	参院議員（無）	–	1	–	–	–	1
445	加藤陽子	東京大学教授（歴史学）	–	1	–	–	–	1
446	加藤舞	Voice Up Japan明治大学支部 代表	–	1	–	–	–	1
447	加藤修平	音楽家／NOT WON	–	1	–	–	–	1
448	下村健一	白鴎大学特任教授／令和メディア研究所主宰／元TBS	–	1	–	–	–	1
449	下岡晃	ミュージシャン・アーティスト	–	–	1	–	–	1
450	音喜多駿	参院議員（維新）	–	1	–	–	–	1

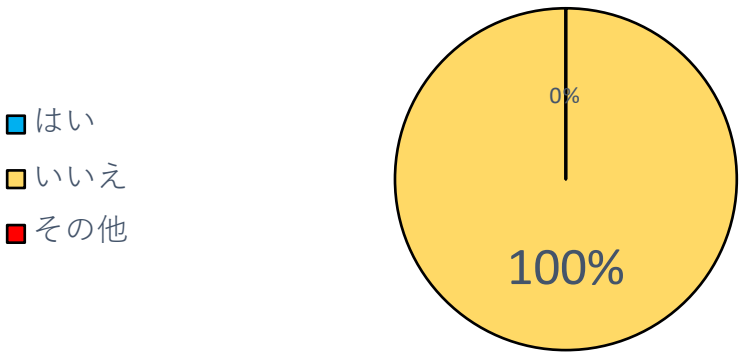
451	温又柔	小説家	−	1	−	−	−	1
452	岡林佐和	朝日新聞記者	−	1	−	−	−	1
453	横山英幸	大阪府議（大阪維新）	−	1	−	−	−	1
454	塩田潤	政治学研究者／活動家	−	1	−	−	−	1
455	遠藤正雄	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
456	遠藤治郎	空間演出家 The New Japan Islandsクリエイティブディレクター	−	1	−	−	−	1
457	猿田佐世	新外交イニシアティブND代表／弁護士（日本・NY州）	−	1	−	−	−	1
458	園田寿	甲南大学法科大学院（刑法）	−	1	−	−	−	1
459	益子実香	Fridays For Future Nasu／Sendai	−	1	−	−	−	1
460	永田夏来	社会学者	−	1	−	−	−	1
461	鵜飼哲	一橋大学教授（仏思想・哲学）	−	1	−	−	−	1
462	鵜戸聡	明治大学准教授（アルジェリア文学）	−	1	−	−	−	1
463	宇都宮健児	弁護士／五輪反対署名呼びかけ人	−	1	−	−	−	1
464	隠岐さや香	名古屋大学教授／日本学術会議連携会員	−	1	−	−	−	1
465	隠岐−須賀麻衣	国士舘大学（政治学）	−	−	−	1	−	1
466	磯部弥一良	「ピースボート」職員	−	1	−	−	−	1
467	伊藤真	弁護士	−	−	1	−	−	1
468	伊藤信太郎	衆院議員（自民）	−	1	−	−	−	1
469	伊藤一郎	相馬市玉野地区「集団ADR」申し立て代表	−	1	−	−	−	1
470	安里長従	司法書士、石垣市住民投票を求める会	−	1	−	−	−	1
471	安藤裕	衆議院議員（自民）	−	1	−	−	−	1
472	安藤優子	キャスター／ジャーナリスト	−	−	1	−	−	1
473	安田純平	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
474	安積遊歩	自立生活センター札幌・理事	−	1	−	−	−	1
475	安次嶺雪音	「ヘリパッドいらない」住民の会	−	1	−	−	−	1
476	安原浩	元・広島高等裁判所岡山支部裁判長	−	1	−	−	−	1
477	安井浩美	ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
478	逢坂誠二	衆院議員（立民）	−	1	−	−	−	1
479	阿古智子	東京大学教授（現代中国）	−	1	−	−	−	1
480	ワヨミ	ウィシュマ・サンダマリさんの妹	−	−	1	−	−	1
481	ロバート・キャンベル	東京大学名誉教授（日本文学）	−	1	−	−	−	1
482	ゆき	FridaysForFutureIwate	−	1	−	−	−	1
483	ゆうこ	一般人）保育園児（4才）の母親	−	−	1	−	−	1
484	モバイルプリンス	スマートフォンアドバイザー	−	1	−	−	−	1
485	マーティン・ファクラー	ジャーナリスト／元ニューヨーク・タイムズ東京支局長	−	1	−	−	−	1
486	ポールニマ	ウィシュマ・サンダマリさんの妹	−	−	1	−	−	1
487	ぼうごなつこ	漫画家	−	1	−	−	−	1
488	ベアトリス・フィン	ICAN事務局長	−	1	−	−	−	1
489	プリティ太田	小人プロレスラー／俳優	−	1	−	−	−	1
490	ひろ	一般人）中学3年の母親	−	−	1	−	−	1
491	ヒトゥ・ザ・ピーポー	GEZAN／アーティスト	−	1	−	−	−	1
492	ヒオカ	ライター	−	1	−	−	−	1
493	デニズ氏	クルド人・被長期収容者	−	1	−	−	−	1
494	チョウ・ジーイン	大学生／留学生	−	1		−	−	1
495	ダースレイダー	ラッパー	−	7	1	−	−	8
496	シライケイタ	劇作家・演出家	−	1	−	−	−	1
497	シオリーヌ	助産師／性教育YouTuber	−	−	1	−	−	1
498	サーロー節子	13歳の時に広島で被爆	−	1	−	−	−	1
499	エローン	ラッパー	−	1	−	−	−	1
500	うじきつよし	俳優・ミュージシャン	−	−	1	−	−	1

501	いわぶち友	参院議員（共産）	−	1	−	−	−	1
502	あんのまり	看護師／Voices of Nurses	−	1	−	−	−	1
503	アイリーン・美緒子・スミス	環境ジャーナリスト	−	1	−	−	−	1
504	Yuri Kim	D2021／学生ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
505	Wakako Fukuda	Anti-Capitalist	−	1	−	−	−	1
506	Naz Chris	DJ・J-WAVEナビゲーター／#SaveTheDance	−	1	−	−	−	1
507	Ms.Machine	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
508	Moment Joon	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
509	miru shinoda	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
510	Mai Kyaw Oo	在日ミャンマー市民協会	−	1	−	−	−	1
511	Lil Mofo	DJ	−	−	−	−	1	1
512	KOM_I	歌手／アーティスト	−	1	−	−	−	1
513	Hibi Bliss	DJ	−	−	−	−	1	1
514	haru.	編集者／プロデューサー	−	1	−	−	−	1
515	GEZAN	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
516	GOMA	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
517	ermhoi	ミュージシャン	−	1	−	−	−	1
518	DancingLuckyBoy,Soushin 想真	自閉症＜発達障害＞ダンサー	−	1	−	−	−	1
519	草野真範	手話通訳士	−	−	−	−	1	1

CLPアンケート調査

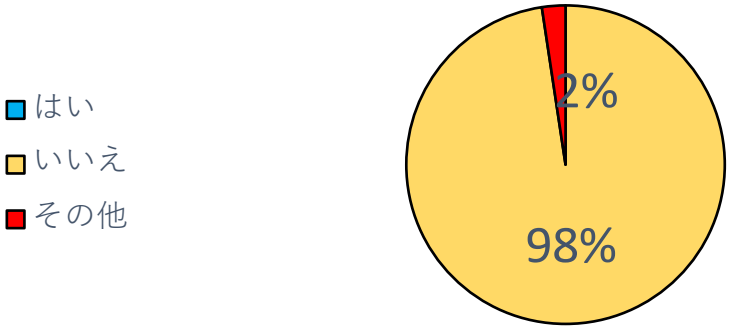
＜期間＞2022年3月2日～3月12日
＜回答率＞　60.87%（69人に送付、42人から返信）
＜アンケート票・送付について＞
当該期間において「複数回以上」もしくは「構成上、多くの情報を共有し、協力を仰いだ」出演者をCLP側で整理し送付。回答は、調査側で集約しまとめた。

1　CLPに、立憲民主党に配慮するよう求められたことがあるか



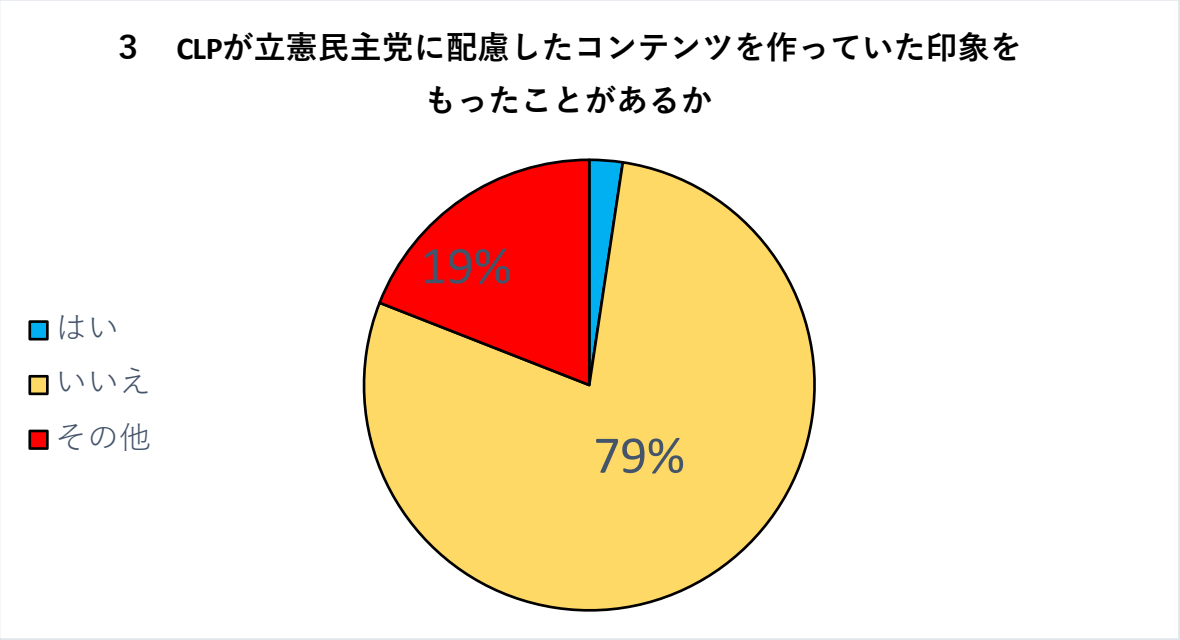
	回答数	割合
はい	0	0%
いいえ	42	100%
その他	0	0%

2　CLPが立憲民主党から資金提供を受けていたことを知っていたか



（その他・回答1）
そういう問題ではない気がする。

	回答数	割合
はい	0	0%
いいえ	41	98%
その他	1	2%



（その他・回答8）

・立憲民主党にというより、メディアの方向性として中立というよりは
　リベラルな考えが強いとは感じていた。むしろその理由もあって応援していた。

・明確に配慮しているという印象ははなかったが、取り上げるテーマや登壇者の選択などから、
　そういう印象を持つ人がいるだろうと感じていた。

・政府の政策判断と異なる意見や事実関係を示すコンテンツを提供するものと認識しており、
　結果的に野党の立場を強化する場になっている印象はあった。

・「配慮」とは違うが、立憲民主党と方向性は同じだったと見る人もいるだろう。

・立民への配慮というよりはリベラル色が濃厚で、
　少なくとも「中道」を指向するものではないとは感じていた。

・検察庁法改正シリーズなど、結果的に立憲民主党の主張を後押しした事実がある。

・立憲デモクラシーそのものへの選好と理解していた。

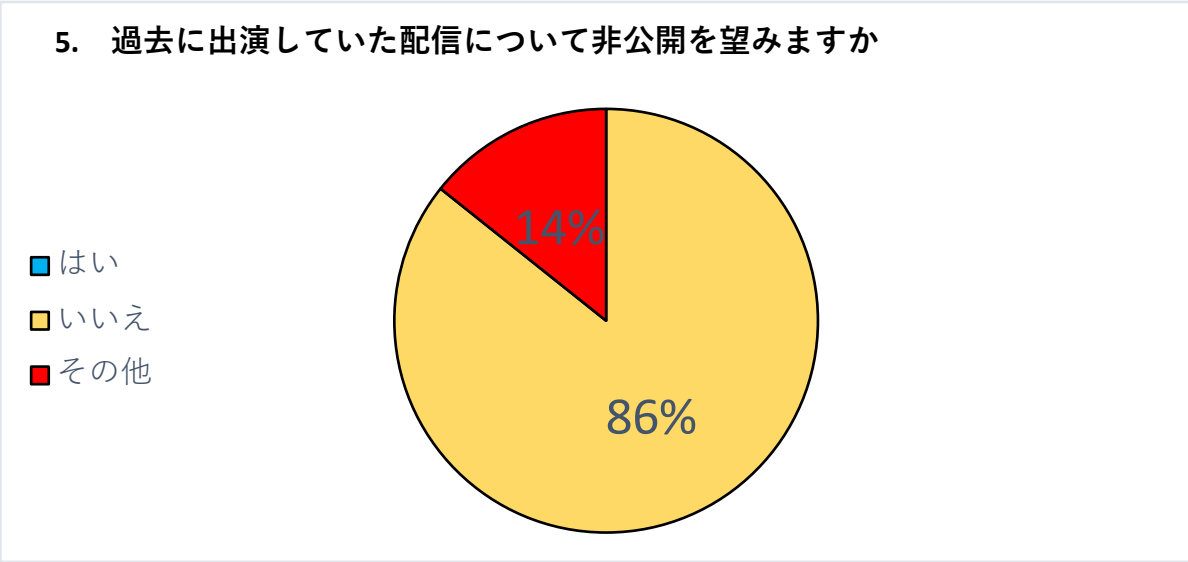
・配慮しているとは思わなかったが、野党色の強いメディアであると認識していた。
　各メディアに色があること自体は悪いことではなく、当時は問題ないと認識していた。

	回答数	割合
はい	1	2%
いいえ	33	79%
その他	8	19%

4　いつ、どう求められたか。その際、どう感じたか等、できるだけ具体的にお書きくだい（※2,3で「はい」と答えた人のみ）

（その他・回答1）

・立憲の議員がたくさん出ているなとは思っていた。



（その他・回答6）

・今までの動画は社会的意義が高いので、非公開を望むわけではないが、心から公開OKとは言えない

・特段非公開を望むものではない。内容にはとても共感していたが、状況がよくわからず困惑している。
透明性の高い調査を望む。どれくらい問題があったのか、透明性と信用性ある説明があればわかる。
このアンケートがCLP関係者の目に触れるか説明がないと回答の信用性に影響が生じうるのではないか

・政党から資金を受けていた以上、残念ですが削除するしかない

・現時点では判断できない。ＣＬＰが存続するのか、責任をどのように果たすのかを見極める。
非公開を希望する場合、こちらからあらためて申し入れる。

・まかせる。出演した事実は消せない。

・公開か非公開かという二択の設問に答えるのが難しい。検証可能性は閉ざすべきでないが
CLPが団体として今後どうしていくのかということとセットで議論した方がいい

	回答数	割合
はい	0	0%
いいえ	36	86%
その他	6	14%